週刊 YEAR BOOK

1966
昭和41年

日録20世紀

6|3
平成9年6月3日発行
(毎週1回発行)第1巻第15号
¥560
講談社

ビートルズがやって来た!

羽田、富士山、松山沖——航空機事故続発!
20万トンクラスも登場した巨大タンカー時代
中国で文化大革命、紅衛兵旋風吹き荒れる

「それは宿命的な出会いであり、大きな事件だった」（写真家・浅井愼平）

日本武道館が興奮のるつぼと化した35分間

6月29日、ビートルズがやって来た！

▲六月三〇日、東京・九段の日本武道館で行われたザ・ビートルズ公演風景。一一曲をたてつづけに歌い、三五分間だけの演奏会だった。 浜田益水

▲「ビートルズ・フォー・セール」ジャケット。英国発売、14曲収録。

▲「プリーズ・プリーズ・ミー」アルバム・ジャケット。英国発売。

▲シングル盤ジャケット。オデオン・レコード（現・東芝EMI）。

▲シングル盤ジャケット。オデオン・レコード（現・東芝EMI）。

◎表紙　6月29日、宿舎の赤坂・東京ヒルトンホテルでの記者会見。左から順にポール・マッカートニー、ジョン・レノン、リンゴ・スター、ジョージ・ハリスン。 浜田益水

▲ビートルズの乗った日航機は台風４号のため遅れ、6月29日午前3時39分、羽田空港に到着。 時事通信社

六月三〇日、東京・九段の日本武道館でザ・ビートルズの第一回日本公演が行われた。約一万人ものファンの悲鳴や絶叫の中で、彼らはせかされるように一一曲を歌い、三五分だけの公演を終えた。六月二九日に来日してからの五日間、彼らは日本の若者に何を残していったのか。

警視庁の厳重な警戒態勢 延べ三万五〇〇〇人動員

「グッド・モーニング」――これがタラップを降りたザ・ビートルズの最初の言葉だった。一行を乗せたJAL四一二便は台風四号の影響で約一一時間遅れて、六月二九日午前三時三九分、羽田空港に到着。ポール・マッカートニー（二四）を先頭に、ジョン・レノン（二五）、リンゴ・スター（二五）、ジョージ・ハリスン（二三）の四人が降り立った。出迎えたのは送迎デッキでの少数のファンと警察官・報道陣の約三〇〇人。一行はすぐに前後をパトカーに守られ宿舎の東京ヒルトンホテルに向かった。

来日に先立つ六月二〇日、警視庁は、彼らが滞在する六月二九日から七月三日までの間に、機動隊など延べ三万五〇〇〇人の動員を決定した。これは六〇年安保と日韓条約反対運動の際をのぞき、同

▲公演会場には私服警官や警備員らの姿も多く、音楽関係者の間では過剰警備など公演のあり方に疑問を投げかける声も多かった。　毎日新聞社

庁創設以来の厳重な警戒態勢だった。また小・中・高校に「良識ある行動をとるよう」生徒指導の要望書を送った。公演（主催は読売新聞社・中部日本放送）の入場券申し込みのはがきは読売新聞社だけでも約二三万通（一人で出した最高記録は一五〇〇通）にのぼった。

日本公演が開幕した六月三〇日、警視庁は東京・九段の日本武道館に機動隊と警察官二〇〇〇人近くを動員し、館内では私服警官や警備員らが、席から立ち上がろうとするファンの制止にあたった。

午後七時三〇分、約一万人のファンが見守る中、司会のE・H・エリックが登場を告げると、「キャーッ」という大歓声が響き渡り、全一一曲の歌と演奏が行われた三五分間、会場は少女たちの絶叫に包まれ、悲鳴をあげて泣き出すもの、失神寸前の状態に陥るもの……など興奮のるつぼと化した。

会場一階の「特設席」には作家の三島由紀夫（四一）や大仏次郎（六八）らの姿も見られたが、「拍手もせず、腕組みしていた」人が多かったという。音楽評論家・湯川れい子（現・五八歳）は、当時を振り返って次のように語る。

「日本武道館での最初のコンサートであり、ファンが泣き叫ぶコンサートというのも日本では初めてのこと。少女たちが泣き叫ぶ声は、一万羽の小鳥がさえずるように、きれいで、かわいらしく、私は美しいと感じました。クラクラと眩惑されカルチャーショックを受けたんです」

また来日から離日まで日本側カメラマンとして活躍した写真家・浅井慎平（現・五九歳）は、「我を忘れたファンの熱狂、物々しい警備、マスコミの反応など、なんとも言えない異様さ、不思議さでしたね。なんだかとんでもないことが起きているんだ、と思いました」と語る。

公演は五回行われ、七月三日午前一〇時四三分、一行は次の公演地マニラへと飛び立っていった。この間、親に無断で上京した少年少女など六五二〇人が補導された。なお、この年八月のサンフランシスコ公演がザ・ビートルズ最後のライブ・コンサートとなり、一九七〇年、世界中のファンに惜しまれながら解散した。

「それは宿命的な出会いであり、大きな事件だった」日本武道館が興奮のるつぼと化した35分間 6月29日、ビートルズがやって来た!

ビートルズのヒット曲

◀一九六五年一〇月、ビートルズはMBE勲章受章。

【ザ・ビートルズの日本版CD・LP・カセットの総合売り上げ】
①「レット・イット・ビー」（232万枚）②「ザ・ビートルズ1962〜1966」（219万枚）③「アビイ・ロード」（219万枚）④「ザ・ビートルズ1966〜1970」（212万枚）⑤「サージェント・ペパーズ・ロンリー・ハーツ・クラブ・バンド」（160万枚）

【世界的規模でのアルバム部門売り上げベスト3】
①「アビイ・ロード」（1300万枚）②「サージェント・ペパーズ」（1100万枚）③「ミート・ザ・ビートルズ」（900万枚）

【世界的規模でのシングル部門売り上げベスト３】
①「ヘイ・ジュード」（1100万枚）②「抱きしめたい」（枚数不明）③「ゲット・バック」（同）（1976年米キャピトル社調べ）

【1964〜92年の日本での売り上げ実績】
①オリジナル・アルバム15点（1023万枚）②編集アルバム10点（433万枚）③編集アルバム（廃盤もの18点―185万枚）④ボックス・セット3点（4万枚）。合計1645万枚、金額約329億円。
（資料提供・東芝ＥＭＩ）

「ビートルズ世代」に抵抗のシンボルの記憶

ザ・ビートルズのメンバーは全員がイギリスのリバプール出身。一九五六年、ジョンが結成したクオリーメンにポールが合流し、五八年にジョージが参加。六〇年八月、ザ・ビートルズ（カブトムシの意）に改名した。六二年、リンゴがピート・ベストに代わってドラムを担当。同年に最初のシングル「ラブ・ミー・ドゥ」を、翌年に「プリーズ・プリーズ・ミー」「シー・ラブズ・ユー」「抱きしめたい」を発表、一躍人気が高まった。

アメリカ初上陸は一九六四年で、「エド・サリバン・ショー」に出演。翌六五年にはシェア・スタジアムで五万六〇〇〇人の史上最高の観客動員数を記録。さらに映画「Ｈｅｌｐ！」などの公開で世界的な人気を博し、ＭＢＥ勲章を受章する。

レコードの売り上げは一九六三年から六五年までの三年間に全世界で二億枚と言われる。

「集団の喜びのエネルギーが大衆音楽そのものですし、意図的な方向を持たず、自由に反応することが大衆音楽のパワーなんです。その意味でビートルズの時代は、ティーンエイジャーの覚醒の時代、『あなたはあなたであって素晴らしい』ということを、一人一人が噛みしめる時代だったのだと思います」（湯川）

「ビートルズには若いパワーと神がかり的な輝きがあった。また彼らの音楽には若い人なら誰もが持っている『せつなさ』があった。ポピュラー・ミュージックの最先端が時代をいち早く察知する、というぼくの考えは今でも同じ。時代のシンボル、世界の共通語としてのビートルズに出会ったことは、ぼくにとっては宿命的であり、大きな事件でした」（浅井）

ザ・ビートルズは長髪やファッションといった風俗や音楽への影響だけでなく、既存の社会・文化に対する若者の拒否・抵抗のシンボルとして「ビートルズ世代」の記憶の底に刻まれ、六〇年代以降、世界中の新しいライフスタイルや人生観、世界観にまで影響をおよぼしたのである。

▼ビートルズ離日の7月3日、羽田までの沿道で涙する少女たち。　朝日新聞社

羽田沖、富士山上空、松山沖 九カ月間で連続四件の飛行機事故 犠牲者三七一人！ 〝魔の金曜日〟の恐怖

▲昭和41年3月5日、BOACボーイングB707型機が、富士山上空で乱気流のため空中分解して墜落。乗客113人、乗員11人全員が死亡した。写真は富士山頂付近の墜落現場の惨状。 朝日新聞社

昭和四一年は、墜落、着陸失敗・大破、空中分解と、国内で大型旅客機による事故が連続し、結局、大小合わせて一二件の事故を数えた。この年は「エアバス時代」の幕開け直前の時期。しかし、国民に与えた衝撃は大きく、飛行機を利用する旅客が激減する結果となった。

二月四日午後六時五九分 全日空機が消息を絶った

「これより計器飛行をやめ、有視界飛行に切り替える。着陸指示を求める」

昭和四一年二月四日午後六時五九分、千歳から羽田に向かっていた全日空ボーイングB727型機の高橋正樹機長（三九）は、千葉市上空から空港管制塔にこう伝えた。この日は満月に近く、雲の影もない視界のよさで、おあつらえ向きの飛行日和だった。条件のよい日には、肉眼に頼る有視界飛行が、当時の規則では許可されていた。その直後、同じく進入途中の日航機とのニアミスを心配した管制官と「日航機が見えるか」「見えない」という応答が交わされた。これを最後に全日空機は消息を絶つ。

海上保安庁、防衛庁などが大捜索活動を開始する。夜一一時すぎに、東京湾の海上と水深二〇メートルの海底から、バラバラの機体と遺体が発見された。それらは半径五〇〇メートルの範囲に集中していた。かなりの低空飛行だったことを裏づけている。同機は、「さっぽろ雪まつり」見物を終え帰京する団体客でほぼ満席だったが、乗客・乗員一三三人全員の死亡が確認された。一機の事故としてはそれまでの世界の航空史上の記録を〝最悪の〟形で塗り替えてしまったのである。

この事故からわずか一ヵ月後の三月四日午後八時すぎ、羽田空港に着陸しようとした香港発のカナダ太平洋航空ダグラスDC8型機が、滑走路端の防潮堤に激突、大破した。濃霧の中で、高度を下げすぎ、進入灯に車輪を引っかけたのであ

朝日新聞社

▲11月18日、松山空港から2.6キロの地点で全日空YS11型機が墜落し、乗客・乗員50人全員が死亡。写真は尾翼の引揚げ作業。

▼3月4日、香港発ブエノスアイレス行きカナダ太平洋航空ダグラスDC8型機が、羽田で着陸に失敗し爆発炎上、64人が死亡した。

毎日新聞社

る。乗っていた日本人五人を含む七二人のうち、生存者はわずかに八人。二つの事故とも金曜日の発生だったため、「魔の金曜日」という言葉がささやかれた。

さらに、それから二四時間もたたない五日午後二時すぎ、羽田から香港に向かっていた英国海外航空（BOAC、現・英国航空）のボーイングB707型機が、富士山上空で空中分解し一二四人全員が死亡した。この当時、観光サービスのため富士山上空を迂回して飛行することが多かった。原因はつむじ風など激しい乱気流に巻きこまれたためとされている。

悪夢は続き一一月一三日午後八時二七分頃、大阪発松山行き全日空YS11型機が着陸に失敗、空港沖に墜落し、乗客・乗員五〇人全員が命を失った。

結局、この一年間に、民間機だけで何と一二件もの事故が起き、合わせて三八九人もの命が失われたのである。

連続事故の墓標の上に築かれた「安全元年」

こうした連続事故の遠因に、ジェット化に追いつかない空港設備の貧弱さがあった。地方空港の多くはプロペラ機対応の一二〇〇㍍滑走路だけでGCA（地上誘導着陸方式）もないのが普通だった。

ハードの不備に輪をかけたのが、日本航空と全日空のパイロット相互の激しいライバル意識と、色濃く残っていた「職人気質」だった。

二月の全日空事故の瞬間に、ちょうど木更津上空で羽田への進入の順番を待っていた日航機の機長・信田正道氏は沈痛な面持ちで振り返る。

「当時はすべての面で日航優先。全日空のパイロットがストレス解消の場を求めていたのもたしか。その典型が羽田沖での壮烈な割りこみ合戦『木更津空中戦』でした」

木更津を通らず、有視界飛行で千葉方向から羽田へ直航するルートは、燃料の大幅節約という実利もあり、さらに腕におぼえのあるパイロットにとってワザの見せ所とあって、この年、報告されただけで三三件も記録されている。それも全日空に多かった。だが、この事故を契機に幹線空港では有視界飛行は禁止された。

こうした一連の事故が国民に与えた衝撃は大きく、前年に一〇〇〇万人の大台を超えた国内線の飛行機利用客は、九一六万人へと大幅に減少してしまった。

「この連続事故まで、空の安全対策はほとんど緒にもついていませんでした。しかし世論の強い批判をあびて、やっと本腰を入れた対策が始まったんです。そういう意味ではこの年は墓標の上に築かれた『安全元年』でした」（航空評論家・関川栄一郎氏）

だが、今でもまだ安全対策は十二分ではない、という声もある。

「現在、飛行機や設備のハイテク化などは飛躍的に進んでいます。しかし一方で、空域整備やパイロットの練度向上など目に見えない部分の対策はなおざりにされたまま。現に管制官は、しばしばニアミスに遭遇して冷や汗を流すこともけっして珍しいことじゃないんです」

元管制官で、現在は全運輸省労働組合の熊谷俊介書記次長はこう不安を語るのである。

▲この年は、こうした遺族の悲しみが何度も繰り返された。写真は、全日空YS11型機が松山空港沖に墜落し、松山西署に設けられた遺体安置所で。 熊切圭介

女たちの肖像

前田美波里 ポスター盗難で一躍、スターに

稲葉真弓

▲18歳の肢体がまぶしい資生堂化粧品のポスター。

この年の夏、次々と盗難にあうB全判の化粧品ポスターがあった。資生堂のサマー化粧品「ビューティケイク」のポスターがそれで、モデルは一八歳の前田美波里。挑戦的な眼差し、一六九㌢の伸びやかな肢体が夏の浜に横たわっているといった構図が目を引いたのだが、このポスター、日本の広告業界初の海外ロケ（ハワイ）を行った歴史的なポスターでもあり、水着でのCM第一号でもあった。しかも、街角からポスターが次々と盗まれたのも初めてとあって前田美波里は一夜にして有名人になった。

〝日本のミュージカルの女王〟と言われる前田美波里は、昭和三八年、芸術座のミュージカル「ノー・ストリングス」のオーディションをトップで合格。父親がアメリカ人、母親が日本人というハーフの恵まれた容姿とプロポーションがまわりを圧倒、舞台演出家の菊田一夫の目にとまった。このミュージカルでジプシーのダンサー役を演じて初舞台を踏んだ彼女は、一〇歳の時、映画「王様と私」を見て以来バレエを習うほどのミュージカルファンになり、ずっと舞台にあこがれていたという。

しかし、彼女を有名にしたのはミュージカルの舞台ではなく、このポスターに加えて歌手のマイク真木との結婚、離婚だった。四二年、ヒット曲「バラが咲いた」で人気絶頂だったマイク真木と結婚した彼女は四年後に長男・蔵人を出産したが、五〇年離婚。三歳の息子を夫のもとに残して家を出たことで、マスコミのかっこうの話題となった。

彼女は後に女性誌で「私はあの時、息子ではなく自分自身を選んだ。それは結果的に仕事を選ぶことだった」と語ったが、離婚後は舞台一筋。五四年、劇団四季のミュージカル「コーラス・ライン」のオーディションを受け二度目でシーラ役を射止める。以後「アプローズ」「キャッツ」など数々の舞台を踏み、平成六年夏には「キャバレー」でファンを魅了、〝日本のライザ・ミネリ〟と喝采をあびた。六二年秋には、離婚後初めて息子の蔵人と再会をはたし、〝母の座〟にも復帰。

今、前田美波里は最も輝いているエンターテイナーの一人だが、結婚の時期をのぞいた全人生を、ミュージカルだけに賭けた女性は日本では珍しいのではないだろうか。

勝者・敗者

ドラフト一位で巨人に入団「甲府の小天狗」堀内恒夫 一三連勝の新人日本記録！

阿部珠樹

▲7月12日、10連勝をはたした日の堀内投手の力投。

前年の第一回ドラフトで巨人に入団した甲府商業出身の投手・堀内恒夫（一八）は、昭和四一年のシーズンが始まると、いきなりめざましい活躍を見せる。堀内は、開幕直後の対中日戦に先発して初勝利をあげると、快速球と大きく割れるカーブを武器に、あれよあれよという間に勝ち星を重ね、オールスターまでに土つかずの一一連勝、オールスター後もさらに二つ勝ち星を重ねて、新人投手の連勝日本記録をマークしたのである。

そしてシーズンが終わった時には一六勝二敗、防御率一位という抜群の成績を残し、新人王、沢村賞のタイトルに輝いた。

ドラフト制度は戦力の均衡と契約金の高騰防止をねらって導入されたものだったが、その新制度で堀内という最も大きな成果を得たのが、チーム力、資金力ともにトップと目されていた巨人だったのは皮肉な話である。

堀内の投球の特徴は、なんといってもその度胸のよさにあった。新人の開幕連勝記録を達成した七月一七日の対サンケイ戦が典型で、六回、七回、八回とたてつづけに四球で二人の走者を出しながら、その後開き直ったようにストライクが入りだし、得点を許さない。結局終わってみれば完封勝ちで新記録を樹立した。ピンチになるほど力を出すプレートさばきは、「ほんとうにルーキーか」との声もあがるほどだった。

また、投げるたびに帽子が横に曲がる独特のフォームも、堀内の人気に拍車をかけた。

私生活では、合宿の門限破りの常習犯で、監督や先輩から一喝されることもたびたびだったが、それでもしょげ返ったりせず、マウンドでしっかり答えを出すところが堀内の真骨頂だった。

巨人は堀内の活躍もあって、前年に続き、この年、リーグ優勝、日本シリーズ優勝を手にする。そして、ドラフト以前に入団した長嶋、王、ドラフトで加わった堀内らの絶妙のアンサンブルで、昭和四八年まで、前人未到の日本シリーズ九連覇をなしとげるのである。

1月

毎日新聞社

▲デビ夫人（旧名・根本七保子）佐藤首相を訪問（1月4日）夫のスカルノ・インドネシア大統領の親書を手渡し、病院建設への協力を要請。また記者会見で、クーデター未遂事件にからむ夫の日本亡命はないと述べた。

▶インド新首相にインディラ・ガンジー（1月19日）第一党国民会議派議員団団長（党首）に選出されたため、慣習にしたがって首相に就任した。インディラは元首相ネルーの娘で、女性首相としては世界で二人目。

WWP

▲三沢市街で大火（1月11日）午後2時20分頃、雑貨店から出火。平均15メートルの強風とポンプ車不足のため、約6時間燃え続けて450棟を全焼、やっと鎮火した。828世帯2152人が被災した。原因は炊事の火の不始末。

時事通信社

▲川崎市で米軍のＬＳＴ（戦車揚陸艦）が爆発（1月23日）ベトナムへ出港するため日立造船神奈川工場で修理中、船内に充満していた重油ガスに作業中の溶断機の火花が引火。作業員4人が死亡、5人が負傷した。

朝日新聞社

▼巨人軍・王貞治が婚約（1月6日）相手は4歳年下で用紙会社社長の長女、小八重恭子さん（21）。人気チーム主砲の慶事とあって記者会見場は取材陣で大混雑。挙式は12月1日だった。

朝日新聞社

▼昭和基地再開をペンギンが歓迎（1月）村山隊長ら第7次南極観測隊を乗せた「ふじ」は、前年12月30日、氷の状態がよく基地の間近に接岸した。1月20日、4年ぶりに基地が再開された。

昭和41年1月

1（土）●電話台数が七四〇万台となり、世界第二位に。

2（日）●TBS、怪獣特撮「ウルトラQ」を放映開始。●「週刊サンデー毎日」、長谷川町子の「意地悪ばあさん」の連載開始。

3（月）●ハバナでアジア・アフリカ・ラテンアメリカ三大陸人民連帯会議開催。一〇〇ヵ国が参加。

4（火）●千葉県加茂村で竜巻発生。三八戸が全半壊。

5（水）●全国学生ラグビーで、早大が法大破り初優勝（15日、八幡製鉄を破り日本一に）。

6（木）●官房長官、公務員の平日ゴルフ自粛を指示。

7（金）●総評、韓国労働者の日本導入計画反対を決定。

8（土）●厚生省、大気汚染の常時観測を計画と新聞に。

9（日）●川崎駅前でビル火災。CO中毒で一二人死亡。

10（月）●東京・代々木の旧オリンピック選手村が五輪記念「青少年総合センター」として発足。

11（火）●三沢市の雑貨店から出火、四五〇棟を全焼。

12（水）●名古屋市の富士交通、社員の血液を預血し事故時の乗客用輸血血液を保証する業務を開始。

13（木）●古都保存法公布。京都・奈良・鎌倉など指定。

14（金）●神奈川県警、家出少女二〇人を熱海の芸者置屋に斡旋した暴力団組長ら一三人を送検。

15（土）●デボラ・カー主演の映画「王様と私」封切。

16（日）●常磐市（現・いわき市）に「常磐ハワイアンセンター」開設。

17（月）●在日韓国人の永住許可申請、受付開始。

18（火）●早大で学費値上げ反対の無期限ストに突入。

19（水）●インド首相にインディラ・ガンジー選出。

20（木）●筑摩書房「世界文学全集」第一回配本。この年、各種全集が相次ぎ発売され、ブームに。

21（金）●日ソ航空協定、日ソ貿易協定、調印。

22（土）●一三三次北朝鮮帰還船、四四家族を乗せ出航。

23（日）●NET、連続ドラマ「氷点」を放映開始。ヒロイン陽子役に内藤洋子。

24（月）●八尾市の生活保護世帯の母子、市のケースワーカーから冷蔵庫は贅沢と言われ自殺。

25（火）●東京消防庁、火災続発に「超非常事態」宣言。

26（水）●岡山県警、衆参秘書連合会会長を参院副議長室で暴力団にピストルを斡旋した容疑で逮捕。

27（木）●都教委、越境入学者の締め出しなどを通達。

28（金）●最高裁、小繋事件で入会権を認めず上告棄却。

29（土）●大阪市議会、交通職員の無償乗車禁止と表明。

30（日）●江東区の小学生一六八一人を検診の結果、九割に大気汚染による異常、と新聞に。

31（月）●TBS、「おはよう、にっぽん」放映開始。

ニュース・ファイル

1966

フォト＋日録で再現する365日

この年、NHKの「おはなはん」が、明るくすがすがしい物語で圧倒的な人気を集めた。「若者たち」「バラが咲いた」「君といつまでも」、新しい歌が次々と生まれ、「あんな連中に武道館を使わせるな」という声もある中で、ビートルズの公演が反響を呼んだ。

◀NHK朝の連続テレビ小説「おはなはん」放映開始（4月4日）明治・大正・昭和を明るく生きた女主人公に樫山文枝、その夫に高橋幸治が扮した。平均視聴率50パーセント、最高で60パーセントを超す人気番組となった。

読売新聞社

▲**人力飛行機、初飛行(2月27日)**日大理工学部の学生たちの卒業製作で、名前は「リネット号」。時速25キロで東京の調布飛行場滑走路を走り、フワリと3メートルほど舞い上がった。日本初、世界では3度目の快挙。製作費は100万円だった。

▶**ガーナのエンクルマ大統領失脚(2月24日)**北京訪問の隙をつかれ、陸軍に政権を奪取された。エンクルマはアフリカ独立運動の父とまで称されたが、独裁政治で国民の不満をかっていた。写真は前大統領を侮蔑した肖像を掲げる新政権支持派。

読売新聞社

沢田教一/CORBIS-BETTMANN/PPS

▲**南ベトナム解放戦線、米師団急襲(2月24日)**1個連隊相当が南ベトナム・タンビン地区の米守備隊の地雷原を突破し、夜襲を敢行した。写真は早朝まで4時間におよぶ戦闘後、解放戦線兵士の死体を埋葬地まで引きずる米軍装甲車。

▶**内装仕上げ中にタンカー炎上(2月16日)**名古屋市の石川島播磨重工業造船所で溶接の火花が塗料に引火、作業中の15人が窒息死した。同船は日本でもAクラスのマンモスLPGタンカーだった。

朝日新聞社

▲**早大紛争、学生同士乱闘(2月12日)**1月18日の教育学部などを皮切りに、全学部が学費値上げに反対して無期限ストに入っていたが、この日、反日共系学生が占拠する大学本部に体育系学生がなぐりこみをかけ、22人が負傷した。

▶**ベルリン・フィル異常人気(2月28日)**4月に東京文化会館で行われる演奏会の前売券は3月1日発売。指揮者カラヤンの人気からか、3日前から泊まりこみのファンが押しかける騒ぎとなった。

昭和41年2月

1(火)●栃木県小川町で、「平服成人式」に晴れ着での入場を拒否された女性の父親が法務局に提訴。
2(水)●羽仁進監督の映画「ブワナ・トシの歌」封切。
3(木)●ソ連の「ルナ9号」、月面軟着陸に成功。
4(金)●千歳発全日空ボーイング727型機が羽田沖に墜落。乗員・乗客一三三人全員が死亡。
●中央公論社、「世界の名著」第一回配本。
5(土)●米国視察の稲山八幡製鐵社長、日本の鉄鋼輸出増加に米が反発、自主規制が必要と語る。
6(日)●SF愛好家が急増し同人誌も多数、と新聞に。
7(月)●千葉県富里村の新空港反対派二千余人が千葉市内をデモし、三〇〇人が千葉県庁に突入。
●フジテレビ、「若者たち」を放映開始。ブロードサイド・フォーが歌う主題歌がヒット。
8(火)●政府、国家公務員宣誓書に「不偏不党」を追加。
9(水)●フォークソング、「深く静かな人気」と新聞に。
10(木)●早大全共闘、三百余人が大学本部を占拠。
11(金)●TBS「戦争と子供」、モンテカルロ国際テレビフェスティバルの歴史部門第一位に入賞。
12(土)●一九六〇年の世界の自動車生産、日本勢として初めてトヨタがベストテン入りと判明。
13(日)●京都市で少年が警官を刺し、ピストルを強奪。隣人と親戚に発砲し、一人死亡、一人重体。
14(月)●佐藤首相、米原子力空母の寄港を承認と言明。
15(火)●運輸省、B727型機の機長に操縦査察実施。
16(水)●名古屋市の造船所で火災。一五人死亡。
17(木)●下田外務次官、「核のかさ」に頼るなと発言。
18(金)●気象庁、松代群発地震は月の満ち欠けに関係し、満月・新月の前後に大地震を観測と発表。
19(土)●北ベトナム労働党、「米帝の共犯・日本」の欧州・アジアへの特使派遣(18日)を非難。
20(日)●広島県教委、日本で初めて、筋萎縮症の小・中学生のための学級新設を決定、と新聞に。
21(月)●早大本部に警官隊導入、占拠の学生を排除。
22(火)●米飛行基準局長、B727に欠陥なしと証言。
23(水)●日本レイヨン・三菱化成工業・鐘淵紡績、ポリエステル繊維会社の共同設立覚書に調印。
●韓国、南ベトナムへの二万人増派で米と合意。
24(木)●東京都、幹部天下りの規制基準を発表。
25(金)●総合エネルギー調査会原子力部会、二〇年後には原発技術者一万余人が必要と報告。
26(土)●東京で二・二六事件三十周年追悼法要。
27(日)●全国二一八ヵ所で初の物価メーデー開催。
28(月)●三宅島空港が開港式(3月4日供用開始)。

毎日新聞社

▼**早大、異例の卒業式(3月25日)**学費値上げ反対闘争のため、開校以来初めて全学統一卒業式が中止となり、反対派の全学共闘会議系学生(写真左)は、在校生、父兄らを加え「総括卒業式」を開いた。

▲**東京へ次々と集団就職(3月)**地方の中卒者に対する求人はいぜん多く、この年は28道県に沖縄を加えた各地から約1万2000人が上京した。写真は20日、那覇市・泊港での集団就職見送りの模様。

▶**群馬県水上温泉で戦後最大の旅館火事(3月11日)**午前3時半頃、菊富士ホテル新館から出火、隣の旅館・白雲閣も類焼、計7棟を全焼した。原因は警備員が石油ストーブを倒したため。死者30人、重軽傷者12人に達した。

朝日新聞社

共同通信社

▲**米気象衛星「エッサ2号」からの受信に成功(3月14日)**気象庁気象研究所の国産自動送受画装置が、日本付近の気象状況を鮮明にキャッチ。同衛星の画像は、以降、台風予報や天気図解析の資料として多用された。

毎日新聞社

▼**自衛隊牽引車が線路に転落(3月25日)**千葉県御宿町の国道で運転を誤り、陸橋の丸山橋から、約6メートル下の国鉄房総東線の線路に落ちた。乗員一人が死亡。

共同通信社

昭和41年3月

1(火)●鈴木忠志・別役実、劇団「早稲田小劇場」結成。
2(水)●南海電鉄高野線で置き石のため電車が脱線。
3(木)●川崎市で、乗用車六五台などを盗んでいた少年少女一一人をこの日までに補導。
4(金)●カナダ太平洋航空機が羽田着陸に失敗、防波堤に激突して爆発・炎上。六四人死亡。
●政府、衆院で、憲法は自衛隊の海外派兵を禁止、国連の要請あっても断る、と答弁。
5(土)●英国海外航空機が墜落。一二四人死亡。
6(日)●日本テレビ、世界初のカラー・スポットCM(スポンサーは日立製作所)の放映開始。
7(月)●大蔵省、標準生計費発表。食費一日一八八円。
8(火)●藤沢で競輪ノミ行為で収益二億円の五人逮捕。
9(水)●北陸本線勝山トンネルで落盤事故。二人死亡。
10(木)●南ベトナム各地で仏教徒の反政府デモ続発。
11(金)●東大寺、奈良県の文化観光税停止を求め提訴。
12(土)●川崎市の飼料製造会社に県が悪臭防止命令。
13(日)●日本芸能実演家団体協議会、NHKに出演料一律三〇%以上の値上げを要望。
14(月)●洗濯機の普及率六四%と日本電機工業会発表。
15(火)●文化財保護委、前年死亡したコウノトリ三羽の死因は農薬による水銀中毒と発表。
16(水)●沖縄初の行政主席間接選挙。野党は投票拒否。
17(木)●奈良県、「能率向上のため」女子不採用と決定。
18(金)●社会党、衆院で国士館大の「復古教育」を批判。
19(土)●「松下幸之助死亡説」が広まり、松下株が下落。
20(日)●石垣市長選で不正疑惑。六千余人騒ぎ死者も。
21(月)●「全国どこでもカラーテレビを楽しめるマイクロ回線完成間近」と、家電各社が共同広告。
22(火)●歌志内市の空知炭鉱でガス爆発。一二人死亡。
23(水)●富山県、日本で初めて登山届出条例を制定。
24(木)●最高裁、青梅事件の二審有罪を破棄、差し戻し。
25(金)●政府、明治百年事業を国家的規模でと決定。
26(土)●厚生省、高崎市に初の重度心身障害者コロニー「心身障害者の村」の建設を決定。
27(日)●バイオリン早期教育の「才能教育研究会」大会、武道館に二千余人の生徒を集めて開催。
28(月)●社・公両党、神奈川県新庁舎の完工式に一六〇〇万円の支出は税金のむだ遣いと県を追及。
29(火)●小学校一年生のランドセル廃止決定が相次ぐ西宮市で、ロッカー設置費を含む予算案可決。
30(水)●福岡県議会、前年の全国学力調査を福岡県だけが中止した件で、県教育長の解職を決議。
31(木)●住民登録統計で総人口が一億人を突破。

読売新聞社

▲**チフス事件で千葉大附属病院医局員を逮捕（4月7日）**千葉など3県で飲食物にチフス菌・赤痢菌を混入して同僚らに人体実験をした疑い。一審の千葉地裁で無罪となったが、二審で有罪、昭和57年、最高裁が上告を棄却、懲役6年の刑が確定した。

朝日新聞社

◀**浩宮さま、学習院初等科に初登校（4月9日）**前日ご両親とそろって入学式に出席、この日は授業1日目。朝9時半、侍従と一緒に東宮御所を出て、約10分、500メートルの徒歩通学。美智子妃はその間に車で学校に向かった。

▼**解放戦線、米軍宿舎を爆破（4月1日）**サイゴン最大の宿舎ビクトリアに機銃掃射後、強力な爆弾を積んだ自動車を乗りつけ、車ごと破壊。建物は3階までめちゃめちゃになり、ベトナム人を含む6人が死亡、143人が負傷した。

WWP

野上透

◀**狭き門をパスしたバニーガール（5月27日）**東京・赤坂に開店したクラブ「ゴールデン月世界」に登場。百貨店の女子店員の4倍の月収10万円で募集したところ、300人の独身女性が応募、15人が採用された。

WWP

▲**行方不明の水爆やっと回収（4月7日）**水爆積載の米軍機が1月17日、接触事故を起こし、スペインのパロマレス沖で墜落、水爆1個がなくなり、大規模な捜索が続けられていた。写真は回収時の様子。手前が水爆。

昭和41年 4月

1（金）●中部・関西の国鉄、私鉄などとの職員相互無賃乗車「顔パス」を禁止（関東は15日）。
2（土）●長野県松代町で群発地震が発生。一日からの二日間で六五九六回を記録。
3（日）●NET、「題名のない音楽会」放映開始。
4（月）●都営住宅の申し込みに二万人殺到し警官出動。●NHK朝の連続ドラマ「おはなはん」放映開始。
5（火）●北九州市の中学入学式で、越境入学者を排除。
6（水）●郵政省、新たに九郵便局で日曜配達休止決定。
7（木）●NHK、「ふるさとの歌まつり」放映開始。●日産自動車、「ダットサン・サニー」を発売。
8（金）●在日韓国人三家族二〇人に初の永住許可。●ソ連で書記長制復活。ブレジネフが就任。
9（土）●琉球政府主席、分離返還論支持を表明。
10（日）●渡哲也の「東京流れ者」（監督鈴木清順）封切。
11（月）●日産、サファリラリーB級で一・二位に入賞。
12（火）●東京・千代田区教委、児童などに血液型バッジを着用させるため血液型検査を開始。
13（水）●蜷川虎三、京都府知事選で革新知事初の五選。
14（木）●文部省、青少年映画賞の設置を決定。
15（金）●補習授業は中学の八七％で実施と日教組調査。●マイク真木の「バラが咲いた」発売。
16（土）●都内の看護婦不足は七〇〇〇人、と新聞に。
17（日）●長野県松代町を中心に、一〇時間で六回の地震。松代町では震度五が三回。
18（月）●蛸島彰子、女性では初のプロ将棋初段に昇格。
19（火）●ボストンマラソンで君原健二が優勝。日本選手が四位まで独占。
20（水）●日産自動車とプリンス自動車、合併契約に調印（8月1日、日産自動車として新発足）。
21（木）●東京で老人が老後保障求める嘆願書残し自殺。
22（金）●佐渡で死んだトキ二羽から農薬中の水銀検出。
23（土）●大浜早大総長、学内紛争を理由に辞意を表明。
24（日）●ブランデージIOC会長、ローマでの総会で商業主義排除を求める、と演説。
25（月）●種子島宇宙センター建設のための調査団派遣。
26（火）●公労協・交通共闘が統一スト。私鉄大手一〇社と国労が共闘し、空前の交通ストに。●IOC、一九七二年冬季五輪を札幌でと決定。
27（水）●東京地裁、新島ミサイル試射場の入会権是認。
28（木）●農林省、給食の脱脂粉乳を生乳に移行と決定。●国電中央線と地下鉄東西線の乗り入れ開始。
29（金）●小樽市の漁船、沿海州沖でソ連監視船に拿捕。
30（土）●熊本大学長、女子学生の増加に制限をと発言。

証言・あの日この日
吉野秀雄（63）

2月6日（日）　〈午後馬鹿みたいにＴＶ見る。のど自慢全国コンクール三重県大会、アンディ・ウォリアムズ・ショー、現代のスポーツ「プロ・コーチ」広川秀雄、17世紀ヨーロッパ名画展（国立博物館録画）浅野長武・富永惣一・深尾須磨子、劇映画「自殺への契約書」ダニエル・ダリュー、ジュリアン・デュヴィヴィエ。実に４時間40分。疲れ果てたり〉（『吉野秀雄全集』第７巻）

死を翌年に控えた63歳の歌人・吉野秀雄は、毎日のように、しかもジャンルを問わず、テレビを見る。この日記の前日は、朝６時から〈全日空機墜落のＴＶニュースを見る〉。しかしテレビが読書に結びつくこともある。２月８日、〈午後、『日本の歴史⑦・鎌倉幕府』読む。義経のこと、見んとてなり。ＴＶの『源義経』見て読みたくなるなり。別に新智識もなけれども〉。　（坪内祐三）

読売新聞社

▲**東京電力神奈川支店がスパルタ新入社員教育（5月4日）**横浜市にある社員養成所の15本の電柱を使って新人66人に実地指導。一人前の修理技術者になるのに1年と言われるが、連日5時間半の特訓が実って、早くもそれらしい格好になった。

▼**こまどり姉妹襲われる（5月9日）**倉吉市で歌謡ショーの公演中、妹が舞台に上がってきた18歳の少年に腹部などを刺され重傷を負った。少年は姉の方のファンで、無理心中をするつもりで自分も自殺をはかったが、命は取りとめた。

時事通信社

▼**今東光、平泉の中尊寺貫主に就任（5月1日）**寺院の住職となる儀式、晋山式には、松本清張、大宅壮一らも出席、天台宗東北大本山新住職を祝した。昭和31年の直木賞受賞作家、今東光は、大阪府の二つの寺の住職を続けながら作家活動をしてきた。

共同通信社

▼**森脇将光が保釈（5月14日）**昭和39年に自民党総裁選の資金と称して、銀行から30億円の通知預金証書を詐取しようとした吹原産業事件で、吹原とともに逮捕されていた。保釈金は3億3000万円で史上最高。写真は東京拘置所を出るところ。

毎日新聞社

昭和41年 5月

1（日）●日本が、オランウータンなど絶滅寸前の動物の密貿易基地になっている、と新聞に。
2（月）●社会党、自衛隊非武装化など「石橋構想」発表。●UPI通信のカメラマン沢田教一、ベトナム戦争報道でピュリッツァー賞を受賞。
3（火）●伊那市の中学で二九七人が赤痢感染で隔離。
4（水）●松山市議会、議員の汚職続きみずから解散。
5（木）●日光東照宮拝殿（国宝）の蔀に観光客が一〇〇ヵ所におよぶ傷をつけていたと判明。
6（金）●農林省、非有機水銀系農薬への切り替え通達。
7（土）●農学者千余人、ベトナムでの枯れ葉剤使用反対署名を米大統領に送付と決定。
8（日）●デパートで動物のバーゲンさかん、と新聞に。
9（月）●沖縄旅券の「琉球人」を「日本人」に変更。●中国、三度目の核実験（初の水爆実験と推定）。
10（火）●島根県地婦連、子宮癌検診車の巡回を開始。●文藝春秋、盛田昭夫『学歴無用論』を発売。
11（水）●松下電器、職種別賃金制の採用で労使合意。
12（木）●米、ベトナム戦争介入後最大規模の一三五波の北爆。中国雲南省上空にも侵入。
13（金）●長野県観光連、無感地震発表中止の要請決定。
14（土）●運輸省、千葉県木更津沖を埋め立てて新東京国際空港を建設する計画を検討開始。
15（日）●「週刊少年マガジン」、「巨人の星」を連載開始。
16（月）●中国でプロレタリア文化大革命が始まる。
17（火）●農業一五団体が農薬中毒対策協議会を設立。
18（水）●文部省、大学への推薦入学制度採用を決定。
19（木）●嘉手納基地付近に米給油機墜落。一一人死亡。
20（金）●広島市の病院が新聞広告で、未婚女性出産の女児に養父母を募集。照会電話が殺到。
21（土）●国立京都国際会館、開館式。
22（日）●中小企業青年労働者の「杉の子会」が全国大会。
23（月）●鹿児島県種子島に宇宙センター建設と決定。
24（火）●法務省、中国の友好団体入国を条件つき許可。
25（水）●足立区の西新井大師本堂が全焼。本尊は無事。
26（木）●南ベトナム・ユエで一万五〇〇〇人反米デモ。
27（金）●野党四党、「小選挙区制粉砕」で共闘と決定。
28（土）●健保連、自己負担一割を認める方針を示唆。
29（日）●千葉県鋸山で「百尺観音」（高さ三〇㍍）開眼式。
30（月）●米原潜「スヌック」、横須賀に初寄港。●資生堂、夏の化粧品「ビューティケイク」を発売。前田美波里のポスターが評判に。
31（火）●椎名外相、参院外務委で、ベトナム戦争にかかわる米軍への施設供与は義務、と答弁。

▲台風4号、東日本に豪雨禍(6月28日)各地に大雨を降らせ、夜には三陸沖に抜けたが、漁船の遭難も含め、死者・行方不明者83人を出した。写真は30日の川口市内。約1万戸が床上浸水した。

朝日新聞社

▲市川団蔵が瀬戸内海に身投げ(6月4日)関西汽船高松航路の「山水丸」船室から遺留品が発見され、前日夜に入水したことがわかった。団蔵は4月に歌舞伎界を引退、四国巡礼からの帰りだった。写真は巡礼中の5月3日撮影。

WWP

▶トド、大脱走(6月24日)東京・築地の海産物会社が飼っていた体長2.5メートル、体重300キロの大物。警備艇の追跡をかわして隅田川・荒川を遊泳、結局、太平洋に逃れた。

読売新聞社

▼札幌の小学校で集団赤痢(6月3日)6日午後までに144人を隔離、うち28人が真性と診断された。防疫対策本部は感染源は給食とした。写真は「休校」の掲示を見る児童たち。

北海道新聞社

▼公民権運動の英雄メレディス撃たれる(6月6日)黒人投票権登録差別反対運動でデモ行進中、白人に発砲され負傷した。メレディスは4年前ミシシッピ州知事に大学入学を認めさせた黒人としても有名。

昭和41年6月

1(水)●損害保険各社が地震保険を一斉に発売。

2(木)●アメリカの「サーベイヤー1号」月面に軟着陸。

3(金)●考古学協会、建国記念日は無根拠と反対請願。

4(土)●丹下健三、米建築協会ゴールド・メダル受賞。

5(日)●「ニューヨーク・タイムズ」紙、六四〇〇人が署名したベトナム戦争反対の三ページ広告を掲載。

6(月)●高松刑務所で七〇〇人の集団食中毒発生。

7(火)●前年の養殖業六八八万トンで過去最高と農林省。

8(水)●韓国釜山で日本からの密輸麻薬一〇〇キロ押収。

9(木)●原口幸隆全鉱連委員長、労働側では日本から初めてＩＬＯ理事に選出される。

10(金)●日本動物園・水族館協会、国際保護動物の買い入れ・輸出絶対禁止など決議文を発表。

11(土)●山一証券、再建案発表(9月1日新会社発足)。

12(日)●政府世論調査で、家庭での団欒が少ないとの回答が目立つ、と新聞に。

13(月)●韓国経済協力使節団、丸紅飯田と気動車などの購入を契約と発表(初の日韓経済協力)。

14(火)●神奈川県の平塚学園高校で生徒一二〇〇人が校則に反発し授業ボイコット(16日学校陳謝)。
●オーソン・ウェルズの映画「市民ケーン」封切。

15(水)●大阪・釜ケ崎が「あいりん地区」と改称される。
●全国の映画館数は五一五三館で、最盛期三三年の六割弱と国税庁調査。

16(木)●日本航空、ボーイング747型機三機仮発注。

17(金)●池田満寿夫、伊ベネチア・ビエンナーレ国際美術展の版画部門で最高賞を受賞。

18(土)●山梨県、職員の飲酒運転事件で、ともに飲んだ職員を連帯責任で処分。

19(日)●藤沢署、アベックを車ごと誘拐の四人を逮捕。

20(月)●森進一、「女のためいき」で歌手デビュー。

21(火)●ソ連漁業相、歯舞・色丹で操業認めずと表明。

22(水)●八丈小島の住民、集団離島の意向を固める。

23(木)●横須賀の造船所で青函連絡船「十和田丸」進水。

24(金)●全国一五大学付属病院の無給医局員四〇〇〇人、インターン制廃止を求め統一ストを実施。

25(土)●国民の祝日法改正公布。敬老の日と体育の日追加。「建国記念の日」は政令で確定と規定。

26(日)●高尾山で日本初のオリエンテーリング開催。

27(月)●日本輸出入銀行、三六億円の円借款供与を米州開発銀行と契約。日本初の外銀への円供与。

28(火)●成田市で初の三里塚新空港反対総決起大会

29(水)●ザ・ビートルズ来日。

30(木)●学校周辺の特殊浴場禁止など風営法改正公布。

20世紀博物館

ナイフ博物館 岐阜・関市

週末には自分でナイフが作れる日本唯一の専門館

桑原茂夫

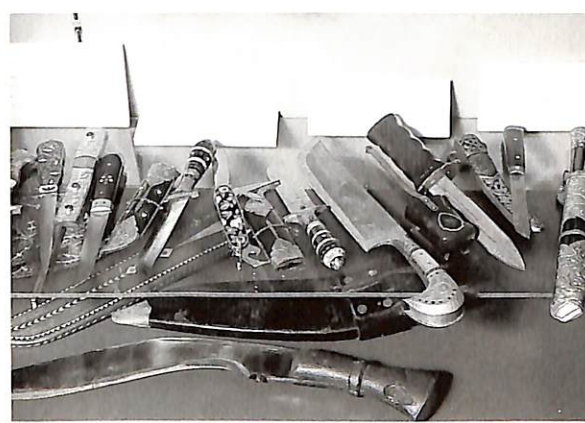
▲1階フロアの中央には、ここを中心に活動している「中部カスタムクラブ」の作品が並んでいる。 平野美津子

ナイフには人を魅了してやまないところがある。刀身(ブレード)が描き出すシャープで優雅なラインや、柄(ハンドル)の持つ機能的で洗練された形。どんな言葉を並べたところで、一本の優れたナイフを前にしては無力である。

▶刃物の町、ドイツ・ゾーリンゲンで作られたもの。

ナイフに引きつけられるのは、人類がかなり早くから手にした"道具"だからだろう。手の延長としての道具、手の能力を一段と高め、鋭く強くした"道具"——記憶の奥深くに、その"道具"を手中におさめた時の感動が刻みこまれているに違いない。

そんなナイフの魅力をあますところなく見せてくれるのが、このナイフ博物館だ。日本で唯一の、ナイフ専門の博物館なのだが、場所が日本刀の時代から刃物の生産で有名な岐阜県の関市(あの"関の孫六"の関とはここのことだ)と、その環境からして本格派なのである。

この博物館を設立し、運営しているのは、ガーバー・サカイ株式会社。日本におけるナイフのトップメーカーのひとつで、昭和六二年にこの博物館が設立されてから訪れる客は年間約五〇〇〇人。とはいっても、遠路はるばる訪れる人も少なくないから、来館者の熱意や感嘆の密度は、濃い。「朝から閉じこもって午後になっても出てこないお客さんもいて、心配することもありますよ」と、ガーバー・サカイの坂井澄雄常務が言うほど。

▲タイやインドなどアジアの珍しいナイフも展示されている。

展示品には"肥後守"も

建物は本場カナダ製のログハウス。自然を意識した造りになっている。中は二階建てになっていて、一、二階合わせて約九〇平方メートル。そこに世界数十ヵ国から集められた優れもののナイフが、飾られている。坂井さんによると、いいナイフ作りのための研究の過程で、たくさんのサンプルを入手したところから、このコレクションは始まったのだと言う。

館内には、アメリカやドイツ、フィンランドなどの著名なメーカーの代表的なナイフはもちろんだが、年配の人ならおそらく一度は手にしたことのある"肥後守"や、戦後の一時期流行した"飛び出しナイフ"の類も置いてある。

さらに目立つのはカスタムナイフだ。カスタムナイフというのは、もっぱらナイフ作りの名人が客の注文に応じて作るナイフのことで、個性的でユニークなものが少なくない。

実はこの博物館にも、カスタムナイフのクラブがあって、個人のナイフ製作を応援している。博物館に隣接した空間に、今は移転した工場の設備が、一部残っていて、週末になるとこの設備をクラブのメンバーに開放しているのだ。坂井さんたちの指導のもと、初心者からベテランまでが、火入れ、打ちこみ、焼き入れなどに汗を流すのである。

ナイフにはどうやら、使うだけでなく、自分の手でそれを作りたくなるような、不思議な魔力があるようだ。

▲ログハウス仕立ての味のある建物である。

●ナイフ博物館
岐阜県関市平賀町七
☎〇五七五—二四—二一三一
長良川鉄道関駅、名鉄新関駅下車、タクシーで五分
開館時間=一〇時～一六時
休館日=年末年始
入館料=大人五〇〇円、小人二〇〇円

"原罪"を見つめた『氷点』と軽薄本『ヘンな本』ヒット

昭和三九年の朝日新聞社の一〇〇〇万円懸賞小説に入選し、「朝日新聞」に連載され人気を集めた、三浦綾子の『氷点』が、前年一一月に単行本となり、この年、たちまちベストセラー上位に名をつらねた。不倫、殺人、兄妹愛など、古今東西永遠のテーマと思われる内容を持ち、人間の原罪を追求したこの小説は、新聞連載当時から、ベストセラーになることが約束されていたといえる。

真っ向から人間のあり方を問うような小説がベストセラーになる一方で、タイトルどおりの『ヘンな本』がよく売れた。その後も増刷を重ね、超ロングセラーとなった。著者は野末陳平。後に、税金問題を専門とする国会議員もつとめたが、当時はサングラスをかけた"プレイボーイ"として、野坂昭如などと並び称されていた。

その著者が「人生は、アソビだ」と言い切り、本についても「文句なしに面白けりゃ、言うことないよ」と前書きに記した。ところで、その前書きにスタッフの一人としてあげられている「監督岩瀬順三」とは、この本の版元である青春出版社の当時の編集長で、この手の本と著者を売り出した仕掛け人、後にKKベストセラーズを創設して出版界に名を馳せた人物である。

この本の中身は、時代風俗がまるで違っているために、文字どおりヘンなところもあるが、結構、今でも役立ちそうなところもあるのが面白い。

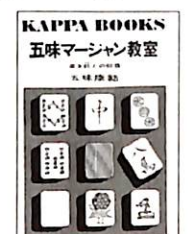
剣豪作家として名を馳せていた五味康祐は、またマージャンに強いので知られていたが、その実際を公開したのが『五味マージャン教室』で、大いに注目された。

●昭和41年のベストセラー

順位	書名(著者/出版社)
1位	『人間革命(2)』(池田大作/聖教新聞社)
2位	『人間への復帰』(庭野日敬/佼成出版社)
3位	『氷点』(三浦綾子/朝日新聞社)
4位	『ヘンな本』(野末陳平/青春出版社)
5位	『海軍主計大尉小泉信吉』(小泉信三/文藝春秋)
6位	『私をささえた一言』(扇谷正造編/青春出版社)
7位	『家庭革命』(池田大作/講談社)
8位	『五味マージャン教室』(五味康祐/光文社)
9位	『山本五十六』(阿川弘之/新潮社)
10位	『天皇ヒロヒト』(L.モズレー/毎日新聞社)

全国出版協会出版科学研究所

▲『氷点』(朝日新聞社、380円)

▲『ヘンな本』(青春出版社、260円)

▲『五味マージャン教室』(光文社、250円)

小沢昭一の名演技が評判 性を追求した『人類学入門』

今村昌平監督が、野坂昭如の小説『エロ事師たち』を映画化した「"エロ事師たち"より 人類学入門」は、主役を演じた小沢昭一の名演技もあって、ドキュメンタリーと見まがうほど、一時代の一人の男を鋭く描き出した映画だった。

主役のエロ事師は「男のあわれに惚れたんや」と、8ミリ映画やエロ写真の製作から販売まで、きわどい仕事で生きているが、「エロと離れんうちが、人生花やで」と、次第に性をとことん追求していくようになる。その鬼気迫る姿こそが、この映画に深みを持たせ、まさに「人類学入門」にさせたのである。

また、人間の存在を思いがけぬ角度から照らし出した、安部公房の小説「他人の顔」を、安部自身のシナリオで勅使河原宏監督が撮った同名の映画も、事故で顔面に大やけどを負った男(仲代達矢)の独白を通して、現代人の姿を不気味なまでにリアルに映し出した映画だった。

一方、日活の鈴木清順監督が好調で、この年「東京流れ者」「けんかえれじい」を撮っている。世間からはみ出したものの熱い思いが伝わってくる傑作だった。

歌の方では、千昌夫が「星影のワルツ」でヒットを飛ばし、歌謡界に確固たる地位を築いていった。

ほかに次のような映画が話題になった。かっこ内はおもな出演者。

「とべない沈黙」(加賀まりこ) 沓掛時次郎・遊侠一匹」(中村錦之助) 「憂国」(三島由紀夫) 「白昼の通り魔」(川口小枝) 「白い巨塔」(田宮二郎) 「男と女」(アヌーク・エーメ) 「ドクトル・ジバゴ」(オマー・シャリフ) 「市民ケーン」(オーソン・ウェルズ)

日活提供

▲坂本スミ子(左)の熱演も光った「人類学入門」。右が主役の小沢昭一。

勅使河原プロ提供

▲幻想的な場面処理だった「他人の顔」。仲代達矢(左)と主治医役の平幹二朗。

▶「東京流れ者」では渡哲也(右)が好演。左は松原智恵子。

日活提供

「チャルメラ」「ポッキー」「ママレモン」"商品に個性を"がヒットの秘訣

▼笑いを呼ぶきわどいゲーム　シートに印刷された赤や青などの丸の上に、指示どおりに手足を乗せ、バランスを失って倒れた方が負けというゲーム「ツィスターゲーム」が任天堂から1セット800円で発売され、ロングセラーになっていった。"美容と健康に!"がうたい文句だったが、ユーモラスなゲームでもあり人気を呼んだ。

▲3C時代の始まりを象徴する自動車　カー、クーラー、カラーテレビの3Cが「新三種の神器」と言われ始めたのはこの年。11月5日に、トヨタ自動車販売(現・トヨタ自動車)が発売した「トヨタカローラ1100」は、その優れた機能と低価格で、3C時代を代表する車となった。1077ccで強力な60馬力。実力は1500ccクラスで、高速ドライブが楽しめるように安全面への細かい配慮や乗り心地のよさを追求した。写真のスタンダードで43万2000円。排気量をライバル車の「サニー」より100ccほど大きくして、「隣りのクルマが小さく見えます」と宣伝した。

▶持ち手を残したところがヒットの要因　板チョコ全盛のチョコレート市場に、独自のスティック型チョコレートスナック「ポッキー」で江崎グリコが参入。ヒット商品となっていたバタープリッツを下地に、プリッツのチョコがけをめざして開発を進め、持ち手を2センチ残したスティック型"チョコテック"の名でテスト販売したのがこの年の1月。大好評を得て10月から、その名も食べる時の"ポッキン"という感覚から「ポッキー」と変えて発売、大ヒットさせた。1箱60円。

▶道路整備より前に丈夫なタイヤ　高速道路など高規格の舗装道路にふさわしい高性能のラジアルタイヤが、イギリスのダンロップ社などから売り出されていたが、日本では住友ゴム工業が先陣を切って、ラジアルタイヤ「SP3」をこの年5月に発売した。初めはマニア向けと思われていたが、自動車メーカーが乗用車用タイヤとして次々に採用するにいたって、あっという間にタイヤの主流となった。

▼屋台のラーメンが即席麺に　昭和30年代なかばに登場して急速に市場を拡大した即席麺だが、消費者の好みも多様化、競争は激化して、各商品に個性が求められるようになっていた。明星食品の「チャルメラ」(1袋85グラム30円)は、親しみがあって飽きのこない、屋台のラーメンの味を再現し、ロングセラーとなった。

▲不要になった台所用品を甦らせる手芸　天然素材に比べて糸の太さや長さを自由に調節できて、色も自在に染められるという手芸糸"アンダリヤ"を使った新製品がヒットした。台所で不要になったプラスチック製の目ざるの穴に、アンダリヤを刺して手芸する「アンダリヤのざる手芸」がハマナカから発売され(1セット=アンダリヤ6玉・ざる3個つき1290円)、女性の間に空前のブームを巻き起こした。

▶秀逸なネーミングと宣伝作戦　台所用合成洗剤の市場に新しいタイプが登場した。手や肌が荒れないことを強調した、ライオン油脂(現・ライオン)の「ママレモン」(380cc100円)だ。肌によいというビタミンCを豊富に含んだレモンのイメージを強く打ち出し、ヒットした。テレビCMに、実名入りで主婦を登場させた作戦も効を奏した。

人物クローズアップ

盛田昭夫（四五）

ソニー副社長の刺激的な提言 先進国入りは「学歴無用」から

昭和四一年五月一〇日、当時急成長を続けていたソニーの副社長をつとめる盛田昭夫が『学歴無用論』を文藝春秋から出版し、大変な話題を呼んだ。

盛田は、大正一〇年一月二六日、現在の愛知県常滑市生まれで、この時四五歳だった。昭和一九年、大阪帝大理学部物理学科卒業後、本来なら家業の造り酒屋を継ぐところ、好きな物理があきらめれず、東京工大講師を経て、海軍で知り合った井深大（現・ファウンダー最高相談役）とともに、二一年、東京通信工業（現・ソニー）を設立、同時に常務となった（後に社長を経て会長、現・ファウンダー名誉会長）。

昭和三五年頃から始まった日本の高度経済成長は、この頃も依然として右肩上がりの急角度を描いていた。それにともなって、国際社会における日本の立場も重要性を増し、特に経済面では、三九年四月のOECD（経済協力開発機構）加盟によって、先進国への仲間入りをはたしていた。

しかし、こうした日本の「先進国入り」は、企業にとっては新たな試練の到来であった。実力だけで世界の大企業と競合していかなければならなくなったからである。

盛田が、日本企業の、特に人材活用の面で不合理性を感じるようになったのは、マーケット開拓のため、三五年頃から一年の大半をアメリカですごすようになったことが大きい。その不合理性というのは、学歴偏重・学歴主義の習慣であった。

企業の目的は利潤の追求にある。企業はその目的のために人材を採用しなければならないが、日本ではいったん採用されてしまうと、高卒は高卒、大卒は大卒として採用時の序列に従い、収入と身分の保証を受けながら定年を迎えるのが普通である。これでは、激烈な国際競争の中で生きてはいけず、したがって、採用の基準は本人の能力と実力におかなければならない、というのが『学歴無用論』の主張である。

こうした盛田の主張に対して、劇作家の菊田一夫は盛田の論に敬意を表しつつも、「私の学歴有用論」という反論を寄せる。尋常小学校中退というみずからの経歴をふまえながら、洋酒にラベルがなければビンの中身はわからない、と学歴の必要性を唱え、今の日本では、学歴無用論は学歴と学力と才能のある人のたわごとと断じたのである。

しかし、当時ソニーには、すでに、外部から異質で個々に優れた能力を持つ人材を採用する経験者採用という制度があった。社員の一人は「新規採用者に対しても学歴をとやかく言うことはなかった」と語っている。

ところで、人の親としての盛田はどうであったか。長女の直子は高校を卒業後、大学には行かず、パリでフランス語を学び、アメリカのジョージタウン大学の英語学校で英語を学んだ。盛田は直子が「大学には行かない」と宣言した時、「大学くらい行ったら」と言ってしまったことを、後に吐露している。

▲平成4年12月、マイケル・ジャクソン（右）の東京ドームでの公演開始前に、楽屋を訪ねる。 WWP

文藝春秋提供

▲『学歴無用論』（文藝春秋）。

▲盛田昭夫は、ソニーの海外マーケットの開拓に力を注ぎ、昭和35年に海外での販売会社を設立するなど、国際派の経営者として知られる。写真は昭和44年1月撮影。 坂昌道

決定的瞬間

ベトナム戦争"泥沼の地獄"撮影したL・バローズも五年後、戦火にたおれた！

一九六六年の一年間に、アメリカは五〇〇〇人の将兵の命を、ベトナム戦線で失った。一週間に平均一〇〇人という計算である。傷病者がこれに数倍したことは言うまでもない。それまでの約五年間の戦死者合計が約一〇〇〇人だったことを考えると、驚異的なふえ方と言えよう。

前年の六五年二月、アメリカは北爆を開始、また本格的な地上兵力投入のスタートとなったダナン上陸など、ベトナム戦争への直接介入を開始した。空だけでなく、地上においても、ベトナム戦争は「アメリカの戦争」に様相を変えた。

一九六五年当時のアメリカの国民総生産は約六八〇〇億ドル、一人当たりで二八九三ドル、対する北ベトナムは推定で約七〇ドル、南ベトナムは同じく一二〇ドルにすぎなかった。生産水準のみならず、人口を見ても、軍事予算・装備を見ても、ベトナムをねじ伏せるなど、文字どおり赤子の手をひねるも同然と考えられていた。そして当初はまさにそうだったのである。だが、現実の戦いの推移は机上の計算を、裏切り続けていった。

派遣兵力はウナギ上りにふえ、最大時の六八年四月末には、五四万三〇〇〇人に達した。だが、兵力をつぎこんでも、戦況の「好転」は見られなかった。

「ライフ」誌のカメラマン、ラリー・バローズ（四〇）が、南北ベトナムの境界線（北緯一七度線）の非武装地帯付近で一点の写真を撮影したのは、アメリカの介入がエスカレートしていたまさにその時期、一九六六年のことだった。

「頭と膝を負傷した兵士が、看護兵に助けられながら、応急の救護所にたどり着いた時、彼は思わず泥の中に倒れている戦友に手をさしのべていた。自分の傷や痛みをも忘れ、戦友に投げかけるまなざしと、うつろに見上げる戦友の眼は、まさにバローズがレンズを通して戦争を見る眼であった」

この写真を再録した『LIFE AT WAR』に記されたキャプションである。

そして、救護所も丘の上を掘った急ごしらえ、あたりはさながら"泥沼の地獄"だった。

アメリカがおちいった泥沼を、一点の写真に凝縮したこの作品への反響ははかり知れないほど大きかった。事実、アメリカ国内はもちろん、国際世論もその後、ベトナム戦争への批判、縮小論が台頭してくるのである。

一九六六年一〇月、戦争遂行の責任者であるはずのマクナマラ国防長官が「戦争拡大努力に反対」という意見書を提出する。ホワイトハウス中枢から公然と、反旗がひるがえった。そして一年後、同長官は辞意表明するにいたる。またキング牧師が「良心的兵役拒否」を呼びかけ（六七年四月）、翌五月には哲学者のラッセル卿らがストックホルムで「ベトナム戦争犯罪国際平和法廷」を開き、アメリカに有罪の判決を下している。

そして、六八年二月、マクナマラの後任の国防長官クリフォードは、次のような見解を打ち出さざるをえなかった。

「五〇万人の大軍を派遣しても、一二〇万トンの爆弾を投下し、年平均四〇万回も攻撃し、三年間で敵を二〇万人殺しても、米軍将兵が二万人死んだ現在でも、農村地域の支配権と都市の防衛は、質的には一九六五年の段階と同じである。介入を深めたにもかかわらず、手詰まりの状態にある。今や新しい戦略が必要になっている」と。

負け戦を知らなかったアメリカ軍の広報体制は、「かゆいところに手が届くような特有のサービス」（写真家、故・岡村昭彦）だった。だが、介入の深まりとともに、サービスが悪くなっただけでなく、協力を好まない態度が目立ったという。前線の広報官事務所で、岡村は机の上に「見ざる、聞かざる、言わざる」が飾られているのを目撃している。

この撮影から五年後の一九七一年二月一〇日、バローズはラオス侵攻作戦を開始した南ベトナム政府軍のヘリコプターに搭乗中、ラオス領内の山岳地帯で地上砲火によって撃墜され、ほかの四人のカメラマンとともにたおれた。そのうち一人は、日本人の嶋元啓三郎だった。

▶非武装地帯に近い四八四高地の激戦で、一種の戦争神経症におちいった兵士。泥まみれの海兵隊員が手をさしのべるが、兵士は無表情だ。

ラリー・バローズ（LIFE）／PPS

美の出会い

版画界にシンデレラ・ボーイ！ ベネチア・ビエンナーレで池田満寿夫がグランプリ受賞

昭和四一年六月、版画家の池田満寿夫は、鋭く走るような線を切りこんだ銅版画二八点を、各国の代表的な作家が出品する国際的な伝統ある美術展ベネチア・ビエンナーレに出品、版画部門の外国人作家最高賞（グランプリ）を受賞した。数年前まで無名だった青年の快挙に、日本美術界だけでなく世界が注目。「シンデレラ・ボーイ」「幸運児」などの言葉が池田に降り注いだ。池田満寿夫、三二歳の時だった。

この頃、池田はニューヨーク近代美術館で開催されていた個展のためにニューヨークに滞在していた。「当時は貧乏だった」と語る池田は、ベネチアに行く旅費もなく、日本からも支給されないので、アメリカで奨学金をもらって現地に行った。「ベネチアでは二ドルくらいの安宿に泊まって発表を待っていました。ぼくは当日の発表まで知らされていなかったけど、まわりの人は前日にはもう知っていて『ブラボー、イケダ』と声をかけてくれました」

「グランプリをもらったのは嬉しかったけれど、あまり実感は湧かなかったですね。何年かたってから、このグランプリはものすごいものだということがわかってきました。ここの版画賞は何年も空白の時があったので、受賞した人は数少ないのです。ぼくは本当に幸運だった」

池田満寿夫の名が美術界に突如として現れたのは、この受賞から六年前の昭和三五年、第二回東京国際版画ビエンナーレ展で文部大臣賞を受賞した時である。この時出品された池田のカラー銅版画「女・動物たち」を、国際審査委員をつとめたドイツ人のグローマン博士が、強く支持した。

この受賞により、それまで二〇〇円でしか売れなかった版画が、一〇倍に値上がりし、コレクターからの注文が殺到するようになる。昭和四〇年には、ニューヨーク近代美術館の版画部長ウイリアム・リーバーマンにより企画された「池田満寿夫の版画」展が同館で開かれた。近代美術館では、日本人としては国吉康雄に次ぐ二人目の個展である。

戦後の日本版画界を代表する作家としては、恩地孝四郎、長谷川潔、浜口陽三、棟方志功らがあげられる。いずれも世界でも引けをとらない作家たちである。しかし、日本の版画は、国内では日本画・洋画に比べ「半画」と呼ばれ、正当な評価を得られないでいた。こうした中で、一九六〇年代の池田満寿夫の登場は、版画界に大きな光を与えたのだった。

池田の版画を初期から見続けてきた詩人で「ギャラリーたんぽぽ」（千葉県野田市）の主である阿部博好氏は、

「躍動するあの線は、もうみごとと言うほかなかったですね。天性のものです。またベネチア・ビエンナーレのグランプリ受賞は衝撃的だった。それ以来、ほしい版画が手に入らなくなりました。今日、版画が評価されるようになったのは、池田の功績が大きいと思いますよ」

と語る。

池田は昭和五二年には『エーゲ海に捧ぐ』で芥川賞を受賞。その後も映画や写真、陶芸など「芸術」のワクにとらわれない幅広い分野で活躍していたが、本誌インタビュー直後の平成九年三月八日に突然他界する。享年六三。惜しみても余りある死だった。

▲昭和39年作「星をとる女たち」。270×265ミリ。奔放な線が印象的。　美術出版社提供

▲ベネチア・ビアンナーレ授賞式での池田満寿夫（左端）。　池田満寿夫提供

▲昭和41年作「愛の瞬間」。458×410ミリ。走るように躍動する線がエロチックな詩情を醸し出している。　美術出版社提供

「現場」を歩く

原宿

暴走する原宿族から町を守った生え抜き住民

山本徹美

▲原宿では、少女の姿が多い。ルーズソックスの女子高生たちの人波がとぎれることはない。 但馬一憲

昭和四一年九月、東京都渋谷区の明治神宮表参道を舞台に、深夜、車やバイクを乗りまわす青少年が物議を醸した。九月一三日付の「朝日新聞」は、「『原宿族』の奇妙な青春、群れ集まる百余人・安眠破るスポーツカー」と、報じた。

翌年七月一〇日には、表参道周辺に住む主婦約二〇人が、都庁を訪れ、当時の美濃部亮吉都知事に「取り締まってほしい」と陳情するにいたったのである。

「原宿族」が横行していた頃の表参道には、まだ中央分離帯がなく（昭和四九年設置）、彼らは原宿駅を起点に、東へ青山通り交差点までの約一キロを暴走、折り返しては、また走る。表参道沿いに建つ同潤会青山アパートに住む麦田トラさん（七〇）が当時を振り返る。

「クラクションをブーブー鳴らして、エンジン音を響かせ、そりゃあ騒がしかったわよ。びっくりして子どもが起きるし、こっちも寝てらんない。それで、町会の皆さんが中心になって、美濃部さんにお願いに行き、しばらくして交通規制がされて、静かになったんです」

今でこそ、青山アパート町会長をつとめる麦田さんだが、当時は婦人部最年少で、「使いっ走り」だったという。

「住みやすい町にしよう、と一所懸命な方が多く、陳情もその現れでした」

手綱を握るのは住民

穏田表参道町会の半田庄司会長も街作りに情熱を傾ける一人だ。平成六年には町の歴史と文化を多角的にとらえた単行本『原宿』を出版している。

「原宿族が登場したのは、昭和三八年頃。恵まれた家庭の子がほとんどで、大きなアメリカ製乗用車を駆り、アイビールックなどで決めていた。彼らは原宿にアメリカンテイストを定着させたいわば功労者です。表参道を暴走していた連中は、ただの目立ちたがり屋で、原宿族とは別物です」

昭和二一年に竹下町（現・神宮前一丁目）に生まれた半田氏は、表参道の変遷を目のあたりにしてきた。戦前、明治神宮への参道としてここには厳粛な雰囲気が漂い、明治天皇の御真影を売る土産物店が一、二軒あるのみだった。それが戦後は一変、米軍将校相手に銀器、陶磁器を売る店が出現し、竹下通りには連れこみ宿が林立した。そこで結束したのが、地元PTAを主体にした町会だった。

「まず、ラブホテルを一掃すべく、昭和三二年、文教地区の指定をもぎとった。以後、風俗営業、パチンコ店を締め出し、ゲームセンターも作らせていません」

平成三年以降、一二月中旬からクリスマスまで表参道の欅並木がイルミネーションで飾られている。地元商店街振興組合が主催するものだ。当初は午後一一時まで点灯していたが、住民に配慮して午後一〇時消灯、と変更された。

ともすると「暴走」しがちな町の手綱を適宜締めてきたのが、生え抜き住民だったと言えよう。

「原宿だけは、住民本位を保ち続けたい」半田氏らの切なる願いである。

▲深夜、車を乗りまわして騒ぐ「原宿族」。昭和41年9月撮影。 朝日新聞社

高度経済成長を支えた巨大タンカー 世界初の20万トン級「出光丸」進水！

▲試運転に向かう「出光丸」。船底から甲板まで23.2メートルもあり、6〜7階建てのビルに相当する。最大速力16.75ノット。 毎日新聞社

九月五日、世界最大のマンモスタンカー「出光丸」が進水した。この年初めに完成し「世界一」と騒がれたばかりの「東京丸」（一五万三六八五重量トン）をあっさり上回る二〇万九三〇二重量トン。これを機に巨大タンカーの発注が相次ぎ、業界はもちろん日本全体が大いに活気づく。

初の二〇万トンタンカー 三〇万トン級も続々誕生

「出光丸」（二〇万九三〇二重量トン）の進水式で鳴らされた高らかなファンファーレは、巨大タンカー時代の幕開けを告げるものだった。前年九月に「東京丸」（一五万三六八五重量トン）を進水させた横浜市の石川島播磨重工横浜第二ドック。その同じドックで、この日午前八時すぎ、注水が始められ、午後一時四〇分、船体は無事に水面に浮かんだ。そして翌日正午すぎ、八隻の大型タグボートによって「出光丸」は海上に引き出され、隣接する艤装岸壁に横づけされたのである。

全長三四四・二一メートル、全幅四九・八メートルの巨船であった。広大なその甲板の広さは、東京ドームのグラウンドの一・一倍もあり、重さ三八・二トンのスクリューは、取り付けるだけで三日間かかったと言われる。また、タンカーとしては世界で初めて、船体の大部分に高張力鋼を使用、軽量化がはかられた。

「出光丸」は年末には船内装備の取り付けや塗装を終え、日本―中東の〝オイル・ロード〟に就航した。

その後、日本の造船会社は大型タンカーの建造を海外からもたてつづけに受注

高度経済成長を支えた巨大タンカー 世界初の20万トン級「出光丸」進水!

する。しかもタンカーの規模は年を追って巨大化していった。もはや二〇万トンは当たり前、三〇万トン以上の超大型船も続続と建造され、四八万重量トンの「日精丸」就航(昭和五〇年)まで一〇年とかからなかった。巨大タンカー建造は日本の独壇場の観を呈し、やがては五〇万トンを超え、いずれ一〇〇万トン級という景気のいい話も噂されるほどであった。

急増する石油輸入量 五年間で二倍近くに

タンカーの大型化は日本の経済成長を強力にバックアップすることになった。

すでに昭和三〇年代後半から、繊維や容器類を中心に、石油化学製品は日常生活のあらゆる分野へ進出を始めていた。昭和四一年にはビール運搬用のケースにプラスチックが使われ始め、家電製品の部品やマイカー時代を迎えた自動車のタイヤも次々と石油化学製品に切り替えられていった。ガソリン、トラックの燃料となる軽油、火力発電所の重油専焼化など、エネルギー源としての利用も、年率一〇~二〇%という勢いでふえ続けた。

昭和四〇年に通産省がまとめた石油供給五ヵ年計画では、四〇年から四四年までの五年間で供給量を一・六倍にすることとされたが、その計画は翌年には上方修正された。しかしそれでもまだ不十分で、実際の輸入量は昭和四〇年の約八七六〇万キロリットルに対し、四四年は一億七五〇〇万キロリットル、この間の伸びは実に二倍近いものになった。

問題はその需要を満たす輸送手段であった。特に日本は当時、輸入の大半をサウジアラビアを中心とする中東に頼っており、欧米各国に比べ航行距離が長いため、一度に多量の石油を運べる大型タンカーが強く求められていた。そのためには、巨大ドックの新設など造船設備の刷新が急務であった。

「出光丸」を建造した石川島播磨重工のドックが操業を開始したのが昭和三九年一〇月、その後も巨大ドックの建設が相次いだ。四〇年には三菱重工が長崎に三〇万重量トン級、三井造船が千葉に一五万重量トン級、日立造船が堺に二〇万重量トン級のドックを完成させていた。

さらに四一年には各社が三〇万~五〇万トン級ドックの建設計画を発表、昭和四〇年代後半には八〇万~一〇〇万トン級のものまで建設されたのである。

▲昭和35年に日本資本のアラビア石油が開発した、サウジアラビアのカフジ油田。 毎日新聞社

▲夕闇迫る神奈川県川崎・鶴見地区の石油コンビナート。隣接するいくつかの企業がパイプで結ばれ、原油の精製から最終製品の生産まで、連続的に作業を進めることができる。 毎日新聞社

オイル・ショックで "厄介もの"扱いに

しかし大型タンカーの「華の時代」は長くは続かなかった。第四次中東戦争をきっかけとする第一次石油危機が状況を一変させたのだ。昭和四八年から四九年にかけて、中東諸国を中心とする産油国は、数回に分けて石油の供給削減と、価格の大幅な引き上げを行った。石油価格は一年間で一気に四・五倍となり、オイル・ショックの波が世界中を襲った。

タンカーの運賃は一〇分の一に暴落した。当然、新船の発注は激減し、最新の技術で造られた大型タンカーも、"厄介もの"扱いされる始末であった。

オーナーである船会社や石油会社は、せっかく造ったタンカーを手放さざるをえなくなり、巨大タンカーは、税や人件費の安いパナマやリベリア船籍で航海を続けることになったのである。

それでは、「夢の一〇〇万トンタンカー」はどうなったのだろうか。

この点では、「出光丸」進水時には思いもよらない結末が待ち受けていた。三〇万トンを超える超大型タンカーは、水深の浅いマラッカ海峡を通れないことや、受け入れる港湾施設にも限界があるという、運用上の問題が、次第にわかってきたのである。

現在では、最も効率がよいとの理由から、二六万~二八万トン級が大型タンカーの標準となっている。一回に運べる量は約二〇〇万バレル(約三二万キロリットル)。日本はこれを九時間で使ってしまう。日本が石油に浮かんでいる事情に変わりはない。

フォト＋日録で再現する365日

新華社／中国通信

▲**長江を泳ぐ毛沢東(7月16日)**ちょうど2ヵ月前に「文化大革命」をスタートさせた混沌とした政局の渦中、武漢市で行われた遊泳大会で、青少年とともに1時間も水泳を楽しんだ(手前)。

朝日新聞社

▼**007の日本ロケ(7月29日)**「007は二度死ぬ」撮影のため、主演のボンド役ショーン・コネリーが来日。翌日、日本人初のボンドガールに選ばれた浜美枝（左）、若林映子(右)と記者会見にのぞんだ。

ROGER-VIOLLET／PPS

▲**フランス、NATO軍から脱退(7月1日)**アメリカの「核のかさ」を否定、国際関係再編と自主外交をねらうド・ゴール大統領の〝大いなる〟決断だった。写真は9月2日、ベトナムで演説するド・ゴール。

◀**国産人工衛星第1号公開(7月13日)**原型が東京・駒場の東大宇宙航空研究所で完成、披露された。2年後に打ち上げ予定の「MS—1」と同型で、重さ75キロ。観測機器類の宇宙環境耐久テスト用に製作。

毎日新聞社

▶**ライシャワー駐日大使辞任(7月26日)**アメリカきっての日本通とされ、日米の架け橋として5年間奮闘。帰米後はハーバード大教授に復帰。写真は辞任の挨拶をする大使。右はハル夫人。

WWP

▼**ブラック・パワー爆発(7月)**改善されない人種差別への苛立ちに記録的な暑さが加わり、全米各地で暴動が続発。写真は10月29日、演説する指導者のカーマイケル。

昭和41年7月

1(金)●日航・全日空、「スカイメイト」制を実施。●郵便料金値上げ。はがき七円、封書一五円に。●仏、NATOの軍事機構から脱退。
2(土)●旭川など四空港開業し計四五空港にと新聞に。
3(日)●NHK「おはなはん」、好評で再々放送を開始。
4(月)●閣議、新東京国際空港を成田市三里塚と決定。
5(火)●インドネシアのスカルノ、終身大統領の称号を剝奪される。スハルト陸相が大統領代理に。
6(水)●赤痢続発の中、井戸水の六割が不適と新聞に。
7(木)●ソ連、国後沖で北海道のホタテ漁船四隻拿捕。
8(金)●栃木県黒磯町の用水路トンネル復旧作業で農民ら五七人がCO中毒。二五人が死亡。
9(土)●天城高原に中小企業保養施設天城ハウス完成。
10(日)●葉山で第一回ボディビル・コンテスト開催。●鴨川で第一回全日本サーフィン選手権開催。
11(月)●広島市議会、原爆ドームの永久保存を決議。
12(火)●言語障害児を持つ親の会全国協議会大会開催。
13(水)●都教委、都立高入試に学校群新設などを決定。●東大宇宙航空研で国産人工衛星原型一号公開。
14(木)●奈良県、文化財損傷防止のため県外出品拒否。
15(金)●国鉄、勤労青少年に初の帰省運賃割引実施。
16(土)●日ソ領事条約妥結(29日調印。共産圏とは初)。
17(日)●TBS、「ウルトラマン」の放映開始。
18(月)●建設省、多摩川河川敷開放計画を発表。ゴルフ場を縮小し一九〇㌶の公園緑地を建設。
19(火)●全日空機羽田沖墜落事故の遺族会、全日空の一人五〇〇万円の補償額提示を了承。
20(水)●京都市の大徳寺方丈から出火。「猿曳図」焼失。
21(木)●物価問題懇談会、食パン・醤油・豆腐の値下げのため輸入原料を使うよう政府に勧告。
22(金)●閣議、『経済白書』了承。四〇年不況から回復。
23(土)●七期連続五冠の大山康晴、将棋棋聖戦で敗退。●松山刑務所副看守長、看守と暴力団員との不正事件発覚から刑務所内で首吊り自殺。
24(日)●ソ連外相として初めてグロムイコ外相来日。
25(月)●奥田奈良県知事、食生活改善に納豆食を奨励。
26(火)●札幌冬季五輪の組織委員会設立総会開催。
27(水)●巨人の堀内恒夫投手、開幕以来一三連勝。新人としてのこれまでの記録一一を更新。
28(木)●上半期乗用車輸出が前年比四二㌫増と判明。
29(金)●名古屋市で名鉄電車同士が衝突。五八人負傷。
30(土)●群馬県嬬恋村で崖崩れ。就寝中の五人死亡。●映画「007は二度死ぬ」の日本ロケ始まる。
31(日)●牛肉不足で中国からの輸入禁止解除と新聞に。

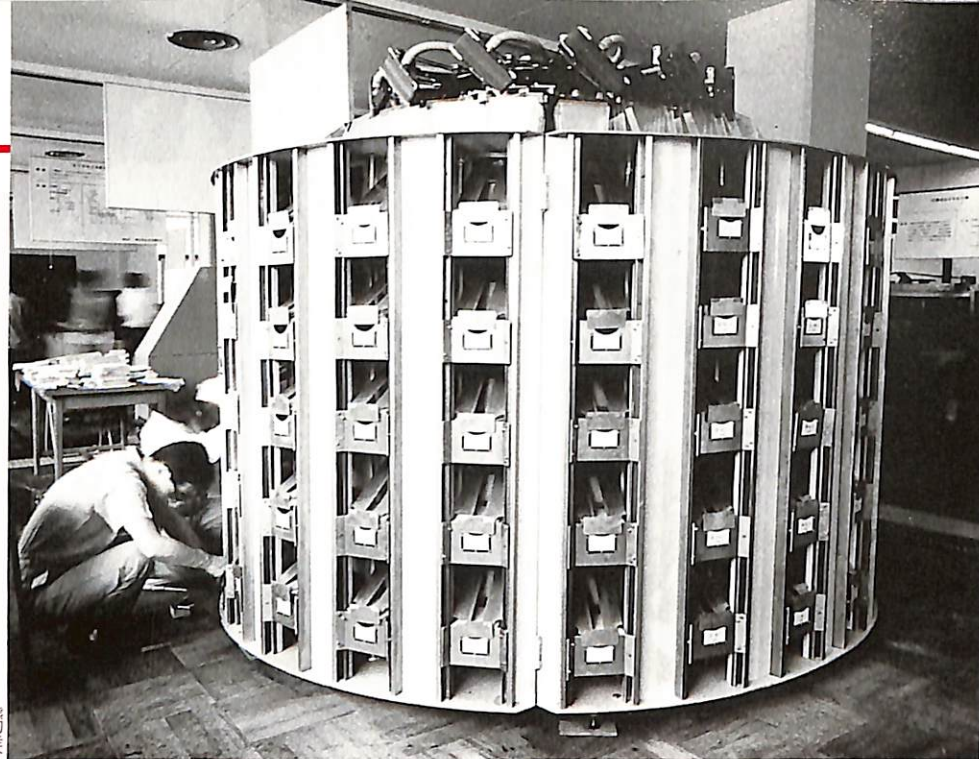
共同通信社

証言・あの日この日

仲井戸麗市(15)

6月30日(木)〈あとで文化人面した大人たちが書いたのを読んでふざけるなと思ったのは、「喚声で掻き消されて聞こえなかった」とかね。俺は聞こえた。大人は女の子が泣いているのをニヤニヤして見たり、なんだかメモしたり……演奏なんか聴いていないんだよね〉(仲井戸麗市「ノーサイド」1995年11月号「特集ビートルズ同時代」)

当時15歳だった仲井戸少年を怒らせた「文化人面した大人たち」とは作家の北杜夫や三島由紀夫らである。16歳だった志村けんは、昼の公演を聞くため高校をサボって東村山から始発電車に乗った。「曲目は意外なものばかりだったし、音は迫力ないし、正直なところ、手応えも感動もなかった」と語るのは彼らより少し年上、18歳だった高田文夫だ。コンサートが終わり泣きじゃくる少女たちを、高田は冷静に見ていた。　(坪内祐三)

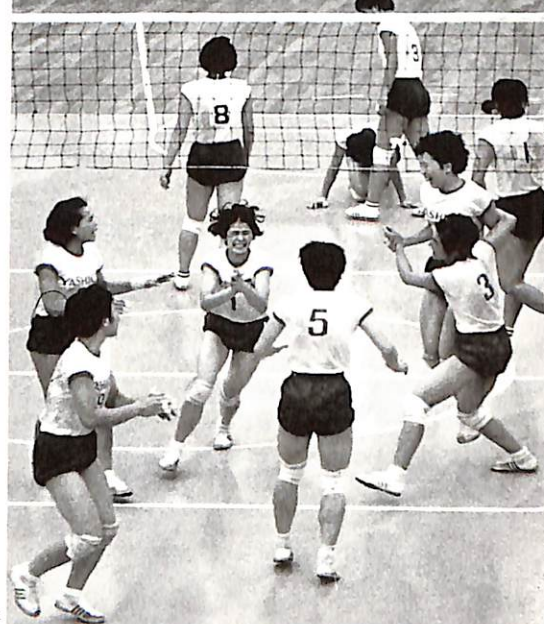
熊切圭介

▲**郵便業務自動化へ一歩(8月)**埼玉県の大宮郵便局に、2億円をかけて実験設備を設置。配達地域別に郵便物を分類するコード式書状区分機などの実用試験が行われた。

▶**「東洋の魔女」敗れる(8月6日)**東京・駒沢で開かれた世界バレーボール選手権代表選考会でニチボー貝塚はヤシカに敗北、東京五輪優勝などを含む連勝が、258でとまった。

時事通信社

◀**田中彰治、恐喝・詐欺容疑で逮捕(8月5日)**衆院決算委員会で問題に火をつけては、もみ消し、多額の金銭を入手していた。この年続く「政界の黒い霧」の第1弾となった。

読売新聞社

▼**ミヤコ蝶々さん、琵琶湖であっぷあっぷ(8月)**周航遊覧船が沈没、映画撮影のために乗船していた蝶々、ラケットなどの人気者が水の中に振り落とされたが、無事だった。

共同通信社

▲**ユリア樹脂製食器の93パーセントから有毒物質(8月17日)**熱湯を注ぐとホルマリンが検出されると主婦連が発表。幼児用などに広く普及しており、販売禁止を厚生省に要望した。

読売新聞社

昭和41年8月

1(月)●日産観光、全国一律料金のレンタカーを開業。
2(火)●成田市議会、新空港条件つき受け入れを決議。
3(水)●長崎の被爆遺体から今も放射能検出と新聞に。
4(木)●公害審議会、公害に対する政府と企業の無過失責任を強調する中間報告を厚相に答申。●大阪府知事に水中銃販売禁止の審議会答申。
5(金)●東京地検、衆院議員の田中彰治を恐喝・詐欺容疑などで逮捕(9月13日議員辞職)。
6(土)●バレーボールのニチボー貝塚、ヤシカに破れる。連勝記録は二五八でストップ。
7(日)●埼玉県で第一回全日本軽飛行機レース開催。
8(月)●通産省メーター検査でタクシーの一二㌫不備。
9(火)●愛知県の豊浦医療少年院から前夜脱走した一七人中、主婦を人質に抵抗した七人逮捕。
10(水)●ブラジル移民代表、政府援助要請のため来日。
11(木)●べ平連、ベトナム平和日米市民会議を開催。
12(金)●大阪万博に一二三ヵ国・二一機関招請と決定。
13(土)●福岡地検、一〇一三人が死傷した三池炭鉱爆発事故(38年11月)で全員を不起訴処分。
14(日)●宮崎県のキャンプ場で、増水により中州にとり残された中学生ら九人が川に流され死亡。
15(月)●東芝、低価格カラーテレビの売り出しを発表。
16(火)●東京都人権擁護委員連合会、下部組織の公害対策委員会に日照権専門委員会を新設。
17(水)●主婦連、ユリア樹脂製食器の危険性を指摘。
18(木)●天安門広場で「文革勝利祝賀」一〇〇万人集会。
19(金)●中津川市、長野県山口村との県境紛争解決のため、対長野県境の自治省案を承認。
20(土)●上越線の新清水トンネル(一三・五㌔)が貫通。
21(日)●第一二回母親大会、総評系不参加のまま開催。
22(月)●韓国、日本人旅行者への査証停止を解除。
23(火)●百貨店審議会、東京・新宿の伊勢丹の増築許可を答申(百貨店の売り場拡張が相次ぐ)。
24(水)●夏の高校野球、中京商業が春夏連続優勝。
25(木)●初のモンゴル墓参団一五人、慰霊祭を行う。
26(金)●同志社大教授・大島正、給与所得者の所得税負担は過重で憲法違反と京都地裁に提訴。●閣議、百円紙幣廃止と硬貨の図案変更を了解。
27(土)●防衛庁、本庁勤務自衛官に制服での通勤指示。
28(日)●地震警報的中、更埴市付近でM五・一の地震。
29(月)●三里塚新国際空港反対同盟、公団の土地買収を複雑化するため土地共有登記を始める。
30(火)●長崎大の岡正雄、大正エビ養殖に成功と発表。
31(水)●筑波研究学園都市用地買収委託調印式、挙行。

WWP

▶「ジェミニ11号」打ち上げ(9月12日)標的衛星との上昇中のドッキングや、ワイヤーで結ばれての編隊飛行に成功した。いずれもアポロ計画に欠かせない技術。

◀生鮮食品の流通革命(9月12日)野菜や鮮魚を、産地から消費地まで低温で輸送して鮮度を保ち、コストも下げるコールドチェーン・システムが動き始めた。写真は20日、青果店を視察する科技庁長官。

時事通信社

▼サルトル、ボーボワール来日(9月18日)慶応大学と人文書院が招いたもので、約1ヵ月間滞在。東京・京都で3回講演し、ベ平連主催の討論会にも出席した。

朝日新聞社

▶南ベトナムで制憲議会選挙(9月11日)戦乱下、投票妨害はあったが、有権者の83パーセントが投票。グエン・カオ・キ首相(左から3人目)も夫人同伴で投票所に姿を見せた。

PANA通信社

◀台風26号、東日本に大惨事(9月25日)静岡県の御前崎付近に上陸、時速70キロの猛スピードで東日本を縦断。山梨県足和田村で死者・行方不明者94人など、全国で318人の犠牲者が出た。

読売新聞社

▼上林山長官、自衛隊を私物化(9月2日)防衛庁長官職に、後援会員を乗せて鹿児島へお国入りし、自衛隊音楽隊を従えて市内をパレードする(写真)などの公私混同ぶりが問題化した。

共同通信社

昭和41年9月

1(木)●自動車排ガス規制実施。CO三%以下など。
●広域暴力団「東声会」、警視庁に解散書提出。
●エノケンらが「浅草を愛する芸能人の会」結成。
2(金)●ジャカルタの日本商社に強盗が続発し、日本大使館が異例の対策本部を設置。
3(土)●わが子を使った「当たり屋」夫婦、大阪で逮捕。
4(日)●台風一八号が宮古島を直撃。住宅の九割一万二〇〇〇戸が全半壊し、サトウキビは全滅。
5(月)●第二回プロ野球ドラフト会議。江夏豊は阪神、水谷孝は阪急が交渉権。
●世界最大のタンカー「出光丸」進水。
6(火)●府中市の小学校で「プール病」。二六八人欠席。
7(水)●日豊線第三鐙川橋梁で貨車二〇両が川へ転落。
8(木)●「土と兵隊」など米軍に没収された映画の返還交渉が成立、一〇六七本の持ち帰りが決定。
9(金)●厚生省、阿賀野川の昭和電工鹿瀬工場排水口からメチル水銀検出と報告。
10(土)●女子就業者の約半数は既婚と『婦人労働白書』。
11(日)●群馬県箕郷町で榛名白川の鉄砲水で四人死亡。
12(月)●コールドチェーン実験第一号として、福島産の低温キュウリを都内一五店で販売。
13(火)●海外の油田開発を目的とする、「アラスカ石油開発会社」創立総会、東京で開催。
14(水)●松代地震で地殻が異常隆起、緊急疎開始まる。
15(木)●初の敬老の日。一〇〇歳以上は二五二人。
●紀元節復活反対キリスト者決起集会開催。
16(金)●韓国の「日本人妻」六七人が里帰りで小倉帰着。
17(土)●勧銀佐賀支店で金庫破り。三二七三万円盗難。
18(日)●サルトルとボーボワール来日(~10月16日)。
19(月)●中教審、「期待される人間像」最終報告を了承。
20(火)●東京の帝国劇場が再建され、開場式挙行。
21(水)●運輸省、トラックのタコグラフ義務化を決定。
22(木)●秦野市議会、初の出産祝い金贈与条例を可決。
23(金)●第一六回世界体操選手権で日本男子団体優勝。
24(土)●熊本県三角町と松島町結ぶ天草五橋が開通。
25(日)●台風二六号が東海直撃、三一八人が死亡・行方不明。富士山頂では最大瞬間風速九一㍍。
26(月)●参院商工委、足尾鉱毒事件を七五年ぶり審議。
27(火)●社会党、共和製糖への不正融資問題を追及。
28(水)●南ベトナムの米軍司令官、非武装地帯一三〇平方㌔での枯れ葉作戦許可を本国に要請。
29(木)●台湾郵政総局、記念切手を日本でも同時発売。
30(金)●日本看護協会、大映映画「赤い天使」は看護婦侮蔑と上映中止を要求。

WWP

▲ヒッピー文化頂点に(10月6日)サンフランシスコの公園に数千人が集まり、愛と平和を求めて「ラブ・イン」を開催した。ヒッピー運動は、1970年代に入ると急速に退潮する。

◀日本初の地熱発電所、運転開始(10月8日)科学技術庁が東化工(株)に開発委託し、岩手県松尾村に建設した。深さ1500メートルの二つの井戸から噴出する蒸気で、タービンを回す仕組み。最大出力は9500キロワット。

共同通信社

▶荒船運輸相辞任(10月11日)選挙区のある国鉄高崎線深谷駅に急行を停車させ、「大臣が急行を止めさせてどこが悪い」と抗弁して世間を驚かせた。関係業者への後援会加入勧誘なども問題化。写真は報道陣の前で手をついて辞任の挨拶をする荒船。

▼接収ダイヤ放出(10月29日)戦争中に国が強制買い上げしたもので、第1回分の2万5000個が売り出された。品質は大蔵省の保証つきで、値段は相場の半値以下、午前中で売り切れのところが続出した。

共同通信社

▶横綱大鵬(26)、婚約(10月2日)秋田県出身の小国芳子さん(19)との婚約発表が、東京の帝国ホテルで行われた。200人近い報道陣に囲まれ、さすがの横綱も終始あがり気味。挙式は新居の完成を待ち、翌年5月30日に行われた。

共同通信社

昭和41年10月

1(土)●福島県いわき市発足(面積は日本最大)。
2(日)●宮城県柴田町の国道で衝突事故。八人死亡。
3(月)●ラジオ関東、初のオールナイト放送を開始。
4(火)●閣議、ユネスコの「教員の地位に関する勧告案」に、スト権留保を条件に賛成と決定。
5(水)●トヨタ、2000GTが長距離高速運転の平均時速世界新二〇六・一八㌔を達成と発表。
6(木)●岐阜県に六割がトンネルの国鉄神岡線開業。
7(金)●東京海上火災、丸の内に三〇階の高層ビル建築を申請(丸の内地区に美観論争起こる)。
8(土)●岩手県松尾村に地熱発電所が完成、運転開始。
9(日)●対馬北西でイカ釣り漁船が韓国艇に拿捕。
10(月)●都市作りに新基本法、大正九年制定の都市計画法全面改正を建設省が準備、と新聞に。
11(火)●荒船運輸相、急行停車問題などで辞任。
●羽田空港税関、「子供を守る世界会議」日本代表から残虐を理由にベトナム戦禍写真を没収。
12(水)●社会党、相次ぐ政府・与党の汚職・腐敗事件に、内閣総辞職か衆院解散を申し入れ。
13(木)●岩手などに豪雨で堤防決壊。浸水三九八二戸。
14(金)●東京都公安委員会、荒川区のストリップ劇場を公然猥褻で六〇日の営業停止処分。
15(土)●日野自動車、トヨタ・グループに参加。
●田宮二郎主演「白い巨塔」封切。
16(日)●世界重量挙げ選手権で三宅義信が四連覇。
17(月)●家電から事典までカラー化が流行、と新聞に。
18(火)●東京に切り身専門の東京切身株式会社創業。
19(水)●大牟田市の三井化学で爆発。九人重軽傷。
20(木)●共産党、衆院予算委で田中角栄自民党幹事長の信濃川河川敷買い占め問題を追及。
●米大リーグのドジャース、一〇年ぶりに来日。
21(金)●総評などがベトナム反戦統一ストを決行。
22(土)●日産、天皇専用車「プリンス ロイヤル」発表。
23(日)●私立幼稚園の授業料二万三七二〇円と新聞に。
24(月)●マニラで米・韓などベトナム参戦七ヵ国会議。
25(火)●国勢調査で農林漁業就業者二五%切ると判明。
26(水)●最高裁、東京中郵事件(33年3月)で公企体職員の争議行為は刑事免責と新判例。
27(木)●共産党、党大会への盗聴器設置で首相に抗議。
28(金)●「週刊プレイボーイ」(集英社)創刊。
29(土)●日航専用機による普通郵便の空輸始まる。
30(日)●江利チエミと中村八大、リオの第一回国際歌謡フェスティバルで特別賞を受賞。
31(月)●国産初の大型ロケット「ミュー1型」打ち上げ。

▲青ケ島に電気がついた(11月1日)八丈島のさらに67キロ南、人口250人の青ケ島は、東京都では唯一の未電化の村だったが、この日、ついに電化された。写真は、集会所に設置されたテレビの前に詰めかけた島民。

東京都島嶼町村会提供

▲レーガン、カリフォルニア州知事に(11月8日)政界初登場で現職のブラウン知事に圧勝。俳優としては一流ではなかったが、後に大統領となり、サクセス・ストーリーの主人公となった。

▶新宿駅西口広場完成(11月26日)国鉄・私鉄の乗客が地下広場を通るようになり、終日混雑した。案内板の不備もあり、まごつく人が続出、駅員や新宿駅西口派出所の警察官は案内に忙殺された。

毎日新聞社

▼カレッジ・フォーク、ブームに(11月)右端は9月に「この広い野原いっぱい」でデビューした、成城学園高等部3年の森山良子。この頃、学生のフォーク・グループは全国で100を超えた。

昭和41年11月

1(火)●東京・三宅坂に国立劇場、開場。
●生保全社、海外旅行生命保険を一斉発売。
●渋谷職安に中高年再就職向け「人材銀行」設置。
●暮しの手帖社、ベンジャミン・スポック『スポック博士の育児書』を発売。
2(水)●島根・鳥取の中海地区を新産業都市と答申。
3(木)●入間市でアジア初の航空ショー。四日間で七八万人の観客を集める。
4(金)●東京・銀座で白タクと乗車拒否横行と新聞に。
5(土)●厚生省、四〇年の国民生活実態調査結果を発表。二五%が「食べるのに精一杯」と回答。
6(日)●関東の一都六県で宅地分譲の合同取締り。「駅から一〇分」が一一キロなど、あくどさ変わらず。
7(月)●新潟県、消息不明出稼ぎ者の公開調査を開始。
8(火)●一一歳から近視が増加と文部省『体育白書』。
9(水)●日韓、共同規制水域での共同パトロール開始。
10(木)●国連総会、核拡散防止共同決議案を可決。
11(金)●清水港で初のカナダ向け輸出ミカン積みこみ。
12(土)●日本航空のニューヨーク行き第一便出発。
13(日)●全日空YS11機、松山沖に墜落。五〇人死亡。
14(月)●日米などが中国代表権問題を「重要事項」に指定する決議案を国連総会に提出(29日可決)。
15(火)●熊本大・九大・富山大、女子入学制限と発表。
16(水)●東京間借人協会発足(会長・中村武志)。
17(木)●新帝劇の柿落とし公演をめぐり対立していた東宝専務・菊田一夫と劇作家・北条秀司が和解。
18(金)●家庭教育費は一〇年で三倍増と文部省調査。
19(土)●横綱栃ノ海引退。在位二年九ヵ月の最短記録。
20(日)●旧東京学生会館に立ち退き強制執行。学生二四〇人が籠城し、警官隊八〇〇人と衝突。
21(月)●新宿区役所、執務中の喫煙を禁止。
22(火)●文部省、全国一斉学力調査の中止を決定。
●東京の東武百貨店が一六インチカラーテレビを九万八八〇〇円で売り出し三〇台が即日完売。
23(水)●「11PM」が賭博場面放映。抗議電話相次ぐ。
24(木)●アジア開発銀行(総裁・渡辺武)、創立総会。
25(金)●警視庁、架空名義手形乱発で倒産した金融会社、東京大証の水野社長を福岡で逮捕。
26(土)●新宿駅西口に世界初の駅前立体広場が完成。
27(日)●全国二九八ヵ所で第二回物価メーデー開催。
28(月)●日米間初の本格的テレビ宇宙中継実験成功。
29(火)●三次防大綱決まる。陸自一八万人体制など。
30(水)●徳島ラジオ商殺し事件(28年11月)で無実を訴える元被告の富士茂子、一二年ぶりに仮出所。

朝日新聞社

▲史上最高のボーナスに沸く歳末商戦(12月)景気の立ち直りと1兆5000億円のボーナスを反映し、繁華街は人で埋まった。衣料品・暖房器具に人気が集まり、売り上げは前年の15～30パーセント増。東京のあるデパートでは、客寄せのぬいぐるみ「トッポ・ジージョ」が大活躍した。

▲「週刊少年マガジン」100万部突破(12月24日)昭和34年3月創刊の講談社の漫画週刊誌で、「丸出だめ夫」「巨人の星」など人気漫画を連載し、読者層を大学生にまで広げて販売部数を伸ばした。

朝日新聞社

▲市川房枝、政治資金の使途を批判(11月25日)日本婦人有権者同盟が政治資金の使途を調査、この日、市川会長が公表した。調査・研究の名目でバーや料亭に流れる政治資金の実態が浮きぼりにされ、市川は早急な制度改革を求めた。

▶大曲の乳価闘争(11月9日)秋田県の酪農組合は、市販牛乳の値段に比べてメーカーの原乳買い上げ価格は安すぎるとして、牛乳1万本分を川に流して抗議した。双方の主張には、1.8リットル当たり10円の差があった。

▶三笠宮甯子内親王、結婚(12月18日)古式ゆかしい装束に身を包み、日本赤十字社勤務の近衛忠煇氏とホテルオークラで挙式した。写真は婚姻届けに押印するお二人。

朝日新聞社

◀手形詐欺にからみ山口衆議院議長辞任(12月2日)10億円の偽手形乱発で逮捕された、東京大証・水野社長との関係が批判された。写真は、記者会見で「国会外のことでやめるのは残念」と語る山口(左)。

毎日新聞社

▶ダンプ、園児の列へ(12月15日)愛知県猿投町の越戸保育園前で、集団通園中の園児の列に、居眠り運転のダンプカーが突っこみ、保母一人と園児10人が死亡、17人が重軽傷を負った。

毎日新聞社

昭和41年12月

1(木)●レコード大賞決定。大賞に橋幸夫「霧氷」、特別賞に「君といつまでも」などの加山雄三。
2(金)●山口衆院議長、東京大証事件に関係し辞任。
3(土)●コザ市で米兵がキャバレー経営者を刺殺。
4(日)●剣道選手権で史上最年少二三歳の千葉仁優勝。
5(月)●一〇〇流派集まり日本いけばな芸術協会発会。
6(火)●高砂市、加古川汚染で一一工場に賠償を請求。
7(水)●議長選贈収賄で紛糾する茨城県議会が解散。
8(木)●東電、米GE社と福島原発建設契約に調印。
9(金)●「サラ金」流行のきざし。てっとり早さがうけ、自動貸し出し機も登場、と新聞に。
10(土)●ベトナム反戦ストで都教組の幹部一〇人逮捕。
11(日)●大阪市で、テレビの遊びをまねダンボール箱に入っていた少女がトラックにひかれ即死。
12(月)●日光東照宮薬師堂の「鳴竜」が復元。
13(火)●物価問題懇談会、「地価抑制」「開発利益課税」などを強い調子で勧告、活動を終える。
14(水)●公取委、東芝・日立など大手メーカー六社にテレビ価格協定破棄を勧告(23日六社拒否)。
15(木)●多湖輝『頭の体操』(光文社)刊行。
16(金)●沢田教一、ベトナム戦争写真によりハーグの世界報道写真コンクールで一・二位を受賞。
17(土)●東京都の予算案、初めて五〇〇〇億円突破。
18(日)●武雄市で自衛隊のトラックとダンプカーが衝突、隊員六人が死亡、八人重軽傷。
19(月)●国連総会、宇宙空間平和利用条約を可決。
20(火)●東京地裁、「結婚による解雇」は違憲と判示。
21(水)●反戦デーのスト指導で日教組委員長ら逮捕。
●食糧庁、外米の販売を自由化。「ビルマライス」などの名で宣伝したが、売れ行き不振。
22(木)●広島のカキ中毒続発で漁協が出荷停止を決定。
23(金)●東京都衛生局、正月用に静岡県で製造された漂白剤大量使用の羊羹七四〇〇本を販売禁止。
24(土)●「週刊少年マガジン」が一〇〇万部を突破。
25(日)●学生会館の運営問題でスト中の中央大学で、大学側が学生の自主管理を認めスト解除。
26(月)●帝人・日本レイヨン・鐘淵紡績が業務提携。
27(火)●衆議院、汚職疑惑続出で解散(黒い霧解散)。
28(水)●文部省、ベビーブームによる新大学生増加対策として公・私立の定員六四六〇人増を発表。
29(木)●南極観測船「ふじ」南極圏へ(新海山発見)。
30(金)●沖縄・具志川村の米軍用地接収反対のため座りこみ中の住民に、米兵が投石。
31(土)●交通事故死が年間一万三九〇四人の最悪記録。

我楽多市

◀「少年マガジン」昭和41年5月15日号から連載が開始された「巨人の星」。作・梶原一騎、画・川崎のぼる。

流行語 “おぼっちゃん願望”の象徴

「幸せだなあ」。加山雄三は高度成長期に芽生えた“おぼっちゃん願望”のシンボルとして人気を集めた。人気俳優、上原謙の息子で慶大卒の湘南ボーイという毛並みのよさに加え、海を愛し音楽を愛する好青年のイメージが、若い男女の憧れをそのまま具現化していたからだ。この年春、彼がみずから作曲（作詞・岩谷時子）し歌った「君といつまでも」が大ヒット。歌の途中で入る「幸せだなあ。僕は君といる時が一番幸せなんだ」という台詞も評判になった。照れくさそうに鼻の脇をこする仕草が、彼の育ちのよさ、好青年ぶりを示すものとして好感を持って迎えられたのである。

「ひとつぐらい、いいじゃねえか」。一〇月一一日、運輸大臣の荒船清十郎は、自分の選挙区である高崎線深谷駅に急行を停車させるよう国鉄のダイヤを改変させたことが明るみに出て辞任に追いこまれた。ところが辞任後、地元での第一声でこう発言したことから、本音を示すものとして話題になり、以後、自分の自我を通したい時の台詞として使われた。

文化 漱石のボツ原稿は一万円 盛況、古書の珍品探し

昨今は世の中の懐具合がよくなったのを反映して古書市が大はやり。特に珍品掘り出しが盛況である。そこで「明治古典会」という古書市に出品された中から珍品の値段を拾ってみる。

芥川龍之介の小学三年生の時の習字。「三年一組」と書かれ、成績は“良”だが、この習字一枚が八〇〇〇円也。堀辰雄が友人に一〇〇〇円の借金を申しこんだ自筆の手紙は資料的に貴重だというので一万五〇〇〇円。伊藤野枝（アナキストで関東大震災の後、大杉栄と一緒に殺された）宛、木村荘太の恋文は七一九〇〇円。

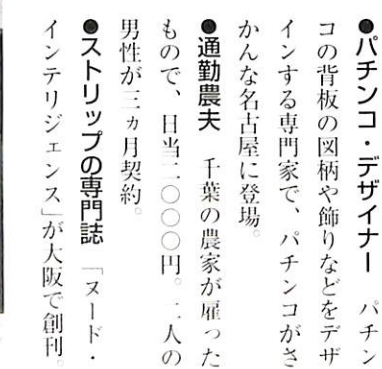
なんといっても人気が高いのは夏目漱石で、文章は一〜二行、後はインクの飛び散った書き損じ原稿が一枚一万円くらいする。

（「オール読物」八月号）

時事通信社

▲9月15日、初の「敬老の日」に、日本交通公社が80歳以上の夫婦を招待、敬老旅行を実施。

科学 日本人が発明した自動車のエア・バッグ

自動車の衝突事故からドライバーの生命を守ろうと、ゴム風船を使ってショックをやわらげ、人体を守るという研究が日本人の手で完成した。「たかがゴム風船で？」と笑ってはいけない。すでにアメリカや西ドイツからも引き合いが来ているのだ。

この安全装置は、重水、バッテリー、特殊発信器、特殊火薬（起爆薬）、特殊液化ガス容器、それにゴム風船からなっており、大きさも風船をのぞくと三〇センチ四方程度のコンパクトなもの。衝突のショックが重水の入った作動部に働くと、重水が動いて自動的にスイッチが入り火薬が爆発、不燃性の液化ガスが気化して座席の前後や天井に組みこんだ風船が瞬間的にふくらみ、クッションの役をはたすというもの。

これはグッド・アイディア・センター、同研究所の小堀保三郎氏の発明で、同氏は自動車などの人身事故は衝突した時の衝撃から生じていることに注目、三年かけてこの研究を完成させた。

小堀氏は「外国の特許も取って世界中の自動車の事故から人命を守ることに役立てたい」と夢をふくらませている。

（「平凡パンチ」四月四日号）

◀TBS系で放映の「ウルトラQ」で人気だった金食い怪獣「カネゴン」。写真はビニール製人形。

©円谷プロ

CM100年

▼山下路夫作詞、いずみたく作曲のCMソングもヒット。

テレビCF

「水虫出たぞ！ 水虫出たぞ！ かゆいぞ イッヒッヒッ！
――明治ポリック」（明治製薬）

はやり歌

君といつまでも

二人を夕やみが
つつむこの窓辺に
あしたも すばらしい
しあわせが くるだろう
君のひとみは 星とかがやき
恋するこの胸は
炎と燃えている
大空そめてゆく
夕陽いろあせても

二人の心は変わらない
いつまでも
幸せだなア……
僕は君といる時が一番幸せなんだ。
僕は死ぬまで君を離さないぞ。
いいだろう……
君はそよ風に 髪を梳かせて
やさしくこの僕の
しとねにしておくれ
今宵も日がくれて
時は去りゆくとも
二人の想いは変わらない
いつまでも

▲岩谷時子作詞、弾厚作（加山雄三）作曲。映画「エレキの若大将」で加山が歌い大ヒット。

星影のワルツ

別れることは つらいけど
仕方がないんだ 君のため
別れに星影の
ワルツをうたおう…
冷たい心じゃ ないんだよ
冷たい心じゃ ないんだよ
今でも好きだ 死ぬ程に

一緒になれる 倖せを
二人で夢見た ほほえんだ
別れに星影の
ワルツをうたおう…
あんなに愛した 仲なのに
あんなに愛した 仲なのに
涙がにじむ 夜の窓

▲白鳥園枝作詞、遠藤実作曲。千昌夫が歌ってヒットし、超ロングセラーとなった。

JASRAC（出）許諾第9703054-701号

三面記事 義理固い男の不幸な結末

〔東京発〕「近く結婚する友人が結婚資金がたりなくて困っている。なんとか助けてやりたくて」とタクシー強盗（未遂）を働いた男（二三）が東京・深川署に捕まった。しかも捕まったのが、走行中の同署のジープの中だった。

その間のいきさつを説明すると強盗に失敗して逃げる途中、ちょうど車が通りかかった。おもわずぱっと手をあげて止めたが、近づいてみるとなんと警察のジープ。これが第一の不運。といっても今さら逃げるわけにもいかず、断られることを期待しつつ「近くの駅まで乗せてくれませんか」と頼んだところ、またまた不運なことに親切なお巡りさんたちだった。で、走り出したとたん、タクシー強盗の緊急配備、しかも運転手がバッチリ人相をおぼえていた。

（「サンケイ新聞」九月一四日）

愛の確認のため夜の校庭で夫婦喧嘩

〔岐阜発〕さる夜、岐阜市内の某署へ「校庭で男と女の変な声がする」との一一〇番があった。さっそくパトカーが駆けつけ、夜目をすかして見るとハデな取っ組みあいの喧嘩をやっている。前後の事情はともあれ、レフェリー・ストップ。仲に入ってわけを聞くと、これがれっきとした若夫婦。別に喧嘩が好きなのではなく、愛情が高まると二人とも、夫婦喧嘩のように大声を出したり、取っ組みあいをしたくなるという。それには狭い団地では具合が悪いとあって、近くの校庭を借用、愛情高揚にハッスルしていたもの。つまり犬も食わない夫婦喧嘩を利用して二人の愛を確かめていたというわけ。

（「岐阜日日新聞」二月一日）

風俗 常連女性はがまんの子 ホストクラブ行状記

二月一日、東京駅八重洲口の近くに日本初のホストクラブ「ナイト東京」が誕生した。開店当初のホストは一〇人だったが、一年たらずで五四人に拡充された（平均年齢二六・七歳）。

客は女性六、同伴三、男性一の割合で、常連女性客は四四〜四五歳の人が最も多い。中には、京都や名古屋などから午後一番の新幹線で上京し、最終でトンボ帰りというモーレツ女性もいる。ただし店に入ると、一時間一六〇〇〜一七〇〇円はかかるので、普通のサラリーマンの奥さんではちょっと無理。中小企業の経営者の奥さんが中心で、代議士の夫人などもまじっている。それだけに装いは金のかかった派手めの姿が目立つが、ホストを誘う女性は案外少ない。ホストの手に触れたり、チークダンスでがまんしている女性が多いという。

（「週刊サンケイ」一二月一一日号）

▲11月15日、東京・渋谷公会堂での「きもの明治百年史」ショー。

時事通信社

▲3月28日、東京・日比谷公会堂で「さくらの女王」選出大会が開催された。

時事通信社

データ 迷信は生きている！ 丙午で出生率激減

昭和四一年は明治三九年以来の丙午だった。科学万能時代に丙午の迷信など忘れられているだろうと思われたが、この年の出生数は一三五万九〇〇〇人で、前年より四六万三〇〇〇人、率にして二五・四％の激減ぶり。前回の明治三九年は一三九万人だったから、六〇年前よりも少なく、明治三三年以来、最少の出生数を記録した。まさかと思っていた迷信が、現代日本に立派に生きていたのだ。

（『昭和世相流行語辞典』旺文社）

この年の初もの 葉山マリーナで初のボディビル大会

●**パチンコ・デザイナー** パチンコの背板の図柄や飾りなどをデザインする専門家で、パチンコがさかんな名古屋に登場。

●**通勤農夫** 千葉の農家が雇ったもので、日当二〇〇〇円。二人の男性が三ヵ月契約。

●**ストリップの専門誌** 「ヌード・インテリジェンス」が大阪で創刊。

死者40万人、損失5000億元
混乱の10年！「文化大革命」始まる

▲天安門広場で毛沢東に歓呼でこたえる紅衛兵たち。彼らは文革の初期に全国各地で猛威をふるったが、後には内部統制も乱れ、毛沢東をはじめとする指導者たちからもうとまれ、“下放”の名のもとに、地方へ追放された。　新華社　中国通信

▲1966年8月、天安門楼上から紅衛兵に接見する毛沢東。後ろは林彪。　新華社　中国通信

▲国家主席だった劉少奇。

▲実権派とされた鄧小平。

▲文革で失脚した彭真。　共同通信社

北京大学構内に突如張り出された大字報（壁新聞）は、その後一〇年にもおよぶ中国文化大革命の序曲だった。四〇万人の死者と一億人の被害者、国民所得の三年分にあたる五〇〇〇億元の経済的損失をもたらし、今も中国の人々に深い亀裂を残すこの大嵐は、一体何だったのか。

「造反有理」が合い言葉 紅衛兵旋風吹き荒れる

「私は紅衛兵の下のクラスで、小学生中心に組織された紅小兵のリーダーとしてバスに乗りこみ市外に出かけ、農民たちに『毛沢東語録』を読むよう大声で呼びかけてまわりました。紅衛兵の活動はとても過激で、パーマをかけたりパンタロンをはいた女性を見つけると、ブルジョア的とばかりハサミを持って襲いかかり、髪の毛や衣服を切り刻んでいる現場を目撃したこともありました」

一九六六年当時は九歳、上海の小学生でその後も文化大革命の渦中にあった朱建栄東洋学園大学教授はこう語る。

文化大革命の象徴とも言える紅衛兵がその姿を公然と現したのは北京大学である。一九六六年五月二五日に張り出された大字報には、「党と社会主義と毛沢東思想に対して、気違いじみた攻撃をかける黒い一味に反撃を加える――これは生きるか死ぬかの階級闘争である」という激しい檄が記されていたのである

打倒の対象は「反革命分子」「修正主義者」と決めつけられた教師たちであった。北京大学から始まった教師たちへの糾弾、自己批判を迫る集会は、全国に広がり、紅衛兵が学校ごとに組織されると、彼らの「造反有理」の運動は一段と激しさを増していった。

八月一八日には、天安門広場で毛沢東みずからが全国から集まった紅衛兵一〇〇万人と接見したが、この年だけで接見は前後八回におよび、参加者は一三〇〇万人にものぼったと言われている。

「新しい校舎の前に、頭や顔にインキを浴びせられた四、五十人の教師が並んでいた。首からは〝反動的学術権威何某〟〝資本主義の手先何某〟といったプラカードがつるされ、同じ文句を書いた三角帽子、背中には汚いほうきや靴やはたきが突っこまれていた。拷問がそれに続いた。糞や虫を食べさせ、電気ショックを与え、割れたガラスの上にひざまずかせ、腕と脚で〝飛行機〟にしてつるした」

これは紅衛兵の一人だったケン・リンの証言である（「文藝春秋」昭和四八年六月号）。

一九六七年七月一〇日の早朝には、清華大学の紅衛兵が北京の中南海にある、国家主席の劉少奇宅を襲撃し、夫人の王光美に無理矢理チャイナドレスとハイヒール、ピンポン玉で作ったネックレスで身を飾らせ、大学の広場に引きずり出した。そして三〇万人が見守る中、唾を吐きかけ罵るという蛮行にまでおよんだ。

紅衛兵旋風は人身への攻撃だけにとどまらなかった。「古い思想、古い文化、古い風俗、古い習慣」の打破を掲げ全国各地で仏像を焼き捨てるなど、文化財や仏閣などが次々と破壊されていった。

打倒対象とされた劉少奇、鄧小平ら

文化大革命は、毛沢東が党中央での劣

外から見たNIPPON

サルトルとボーボワール日本滞在二八日の印象と放言

——佐伯　修

フランスの実存主義哲学者ジャン・ポール・サルトル（一九〇五～一九八〇）と、『第二の性』で知られる作家シモーヌ・ド・ボーボワール（一九〇八～一九八六）が、この年の九月一八日に来日、東京、京都、奈良、高野山、別府、長崎、広島などをめぐった。

彼らは東京、京都で三回講演を行ったが、とりわけボーボワールは、各種の女性誌などからインタビューを受け、引っぱりだこの人気だった。最近になって、この二人に、文字どおり翻弄された女性の手記なども出て、だいぶ神話の皮がはげてきたものの、当時、この二人の関係は、結婚によらない、自由で平等な男女の結びつき方として、インテリ女性たちの憧れの的になっていた。当時の新聞に「実存が第二の性を連れて来る」という川柳も載ったほどだった。

面白いのは、サルトルは活火山が好きで、船で九州の別府へ上陸した時、わざわざ阿蘇山へ行きたいと所望していることだ。阿蘇山の噴火口で、一行を取り囲んだ新聞記者たちに「日本の印象は？」と訊かれて、彼はこう言っている。

「われわれは台風にも遭ったし、歌舞伎も能も見たし、地震にも遭った（交通事故にも遭った）。出会わなかったのは富士山と共産党だ。いま火山が爆発するかも知れませんね」（朝吹登水子『サルトル・ボーヴォワールとの28日間——日本』より。かっこ内は、同じ発言を記録した別の記事より補う）

煮えたぎる火口の光景を前に、上機嫌の絶頂にあった哲学者の放言に、記者たちは大爆笑したと伝えられる。

ちなみに、彼らは、九月一八日、台風による荒天の中を、飛行機で羽田に着いている。富士山も、悪天候で見られなかった。また、「交通事故」は、一〇月四日の晩、大阪の道頓堀から神戸へ向かう途中、彼らを乗せたタクシーが、乗用車と接触事故を起こしたことで、二人とも怪我はなかったが、サルトルは、とっさに車のメーターが二六〇〇円をさしていたことを読みとっていたという。

このほか、二人は刺身が嫌いで、もつ焼きとトンカツを好んで食べ、サルトルは京都の旅館「俵屋」で、サントリー・オールドを飲みすぎて転倒している。また、サルトルは、日本の作家としては谷崎潤一郎に強い関心を示し、谷崎松子夫人とも会見したが、谷崎の墓に一文字「寂」と彫られていることについては「気障だ」と言ったという。

▲9月18日、羽田到着のボーボワール（左）とサルトル。

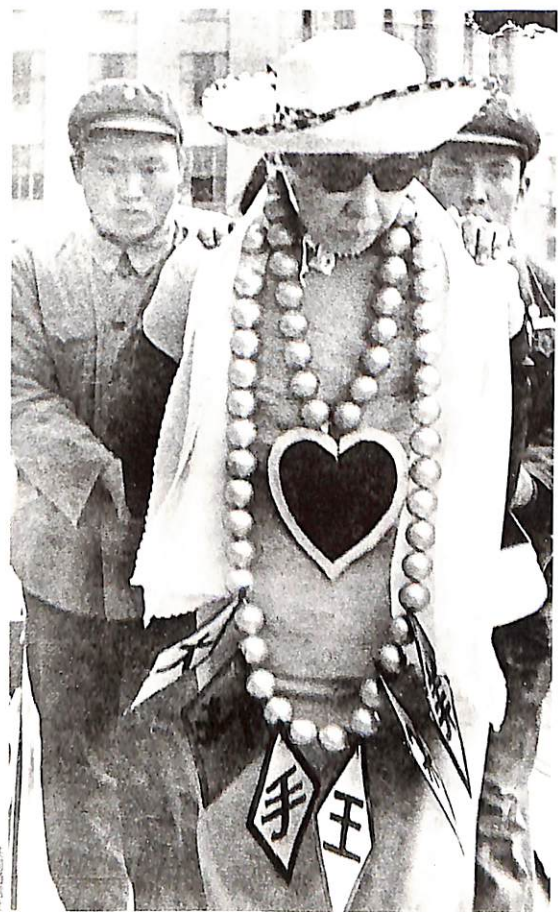
勢をはね返し、みずからの革命思想を徹底させるため、大衆を動員して繰り広げた権力闘争だったと言える。

前哨戦とも言える文芸批評が開始されたのは前年の一九六五年一一月一〇日のことだった。毛沢東の側近で文芸批評家の姚文元上海市党委員会書記が、「新編歴史劇『海瑞罷官』を評す」と題する論文を発表し、歴史学者の北京副市長・呉晗に対する全面的な批判を開始した。

そして六六年五月四日から始まった政治局拡大会議は毛沢東主導のもと「プロレタリア文化大革命の旗を掲げ、文化領域における指導権を反党反社会主義の学術権威から奪回する」などの「五・一六通知」を採択し、闘争の火ぶたが切って落とされたのである。

打倒対象は、劉少奇、鄧小平らの資本主義への道を歩むとされた「実権派」であった。中でも、かつて国家主席をつとめた劉少奇は六八年一〇月、共産党を除名され、六九年一一月一二日、汚辱をあびながら惨死したと言われている。

一方、革命「造反派」の権力内部も複雑だった。穏健派の周恩来、軍部に力のある林彪、そして「文革」を背景に急浮上した王洪文、張春橋、江青、姚文元の、いわゆる「四人組」は虎視眈々と毛沢東亡き後の権力をねらっていた。

この権力闘争に決着がつけられたのは、実に一〇年後の一九七六年のことであった。七一年に林彪のクーデターは失敗に終わり、周恩来、毛沢東が次々と世を去った後、「四人組」逮捕によってようやく文化大革命の嵐は終わりを告げたのである。

毛沢東（1893～1976）
一九四九年の中華人民共和国成立により政府主席。文革を起こして実権を掌握、独裁を強化する。

周恩来（1898～1976）
抗日戦中は国共間の折衝に尽力。新中国成立後は総理兼外交部長として内政・外交の両面で活躍。

劉少奇（1898～1969）
一九四九年、政府副主席。文革初期に「資本主義の道を歩む実権派」と批判され、不遇のうちに死去。

林彪（1908～1971）
一九六九年、毛沢東の後継者とされたが、七一年、反毛クーデターを計画して失敗、逃亡中に墜落死。

共同通信社

▲紅衛兵の糾弾を受ける劉少奇夫人の王光美。

往きて還らぬ

▲11月18日　河井寛次郎（76）
陶芸家。陶芸の民芸運動を起こしたほか、独特の釉薬の用法による辰砂や三彩などの新たな実験を行った。

▲7月31日　高畠華宵（78）
竹久夢二と並んで大正ロマンチシズムを代表する画家。「少年倶楽部」など少年少女雑誌のさし絵で一世を風靡。

▲6月25日　宮田文子（78）
結婚後、家族を捨てて家出。女優や新聞記者をしながら男性遍歴を重ね妖婦と呼ばれた。自伝『わたしの白書』。

▲12月14日　19代式守伊之助（79）
“ひげの伊之助”と親しまれた大相撲立行司。昭和33年秋場所の栃錦対北の洋戦で検査役の判定に抗議し、話題に。

▲9月28日　アンドレ・ブルトン（70）
フランスの詩人・小説家で、シュルレアリスムの主唱者。著書『シュルレアリスム宣言』『ナジャ』など。

▲7月12日　鈴木大拙（95）
世界的な仏教学者で、欧米での東洋思想の普及に力を注いだ。昭和24年文化勲章受章。著書に『大乗仏教概論』など。

共同通信社
▲1月11日　A・ジャコメッティ（64）
モダン彫刻の先駆者。人間の存在を凝縮したような細長い作品で知られる。代表作に「指さす男」「二輪戦車」など。

共同通信社
▲10月10日　清水金一（54）
“シミキン”の愛称でエノケン、ロッパと並んで浅草で活躍した喜劇俳優。「ハッ倒すぞ！」の流行語も生んだ。

▲1月22日　川田順（84）
財界人で歌人。格調高いリズムの中に甘美な浪漫的心情をうたった。戦後、弟子で大学教授夫人との“老いらくの恋”が話題に。歌集『伎芸天』『山海経』など。

▼11月14日　亀井勝一郎（59）
文芸評論家。日本の伝統美の再発見につとめ、古典研究にも力を注いだ。著書『大和古寺風物誌』など。

▲12月15日　ウォルト・ディズニー（65）
ミッキーマウス、白雪姫などを生んだアメリカのアニメ映画製作者。1955年「ディズニーランド」開設。

▲7月23日　モンゴメリー・クリフト（45）
甘いマスクと知性的な演技で人気を集めたアメリカの映画スター。主演作に「終着駅」「陽のあたる場所」など。

▲2月1日　バスター・キートン（70）
アメリカの無声映画時代の俳優。絶対に笑わない“石の顔”が売りもので、主演作に「荒武者キートン」など。

ミニ事典

1966年のキーワード

▲2月27日に開かれた物価メーデー。 共同通信社

物価戦争

「読売新聞」が一月三日から「物価戦争」をタイトルに連載記事をスタートさせた。この年、諸物価の値上げが相次ぎ、一月に米価、私鉄・地下鉄料金、二月には国鉄料金、四月には水道料金、国民健康保険料と続き、庶民の怒りは頂点に達した。二月二七日の物価メーデーには東京で約三二万人、全国で約二一〇万人が参加し、「お嫁にいけない物価高」のプラカードも出るほどだった。

古都保存法

古都の歴史的・伝統的な建造物・遺跡などと、それらと一体になった自然環境を保存するための法律。一月一三日に公布された。対象地域として奈良市、京都市、鎌倉市や奈良県生駒郡斑鳩町、同高市郡明日香村などがあげられ、奈良では平城宮跡の保存、京都では京都タワーの建設が問題になるなど、近代化による開発からそれらを守るための法制化が急がれていた。

大衆団交

大学紛争の際、学生側が公開の場で大学当局に要求を出し、その場で回答を迫る交渉方式。早大学費値上げ反対闘争で、前年一一月に結成された全学共闘会議（全共闘）がこうした実力闘争を展開、一月一六日付「読売新聞」が、見出しに「学生、大衆団交申し入れ」と報じた頃から頻繁に使われるようになった。

核のかさ

核保有国の核戦略に基づく安全保障をかさにたとえて、核を持たない国がその中に入って安全をはかること。ソ連が非核保有国には核攻撃をしないと言ったことにからみ、二月一七日、外務次官・下田武三が「日本は核のかさに頼るな」と発言し問題となった。政府は、核の抑止力に依存しているという意味では核のかさに入っているが、非核保有国であることに変わりはないとの見解を表明。

登山届出条例

三月二六日、富山県が日本で初めて制定した山の遭難防止のための条例。冬と春の登山に対する行程や装備などを記した届け書の提出、無届けや虚偽の登山などの一万円以下の罰金または科料を定めた。北アルプス、立山連峰のある富山県では昭和三〇年から四〇年二月末にかけて三八五人もの死傷者を出し、その多数が無謀な登山が原因と見られていた。

▲谷川岳警備隊詰め所前で登山カードに記入。 朝日新聞社

自動車業界再編成

高度成長時代になって、国際競争に耐えうる体質にすることが急務となり、自動車業界の再編成が進んだ。四月二〇日には、日産自動車とプリンス自動車工業が合併に調印。両社とも高度の技術力を持ちながら業績が伸び悩んでいた。一〇月にはトヨタ自動車と日野自動車が提携、いすゞ自動車はGM傘下に入り、東洋工業はフォードの資本を受け入れた。

有機水銀系農薬

稲の大敵、いもち病を防除する殺菌剤。水銀原子が直接、炭素原子と結合している有機化合物からなる。効力がきわめて強いためさかんに用いられたが、米粒中の残留と毒性が問題となったため、五月六日、農林省は非水銀系農薬へ切り換えるように全国の地方農政局長へ通達した。しかし、完全に禁止されたのは昭和四八年一〇月になってからである。

アジア開発銀行

アジア・太平洋諸地域の経済開発を促進するために設立された国際機関。略称ADB。七月二二日、衆院本会議で設立協定の締結を承認、一一月二四日、創立総会が開催された。本部マニラ。加盟国は五六ヵ国（一九九四年末現在）、日本が筆頭出資国で、域外国のアメリカなど西側諸国も出資している。一九七四年、新たな融資資金としてアジア開発基金も発足させた。

筑波研究学園都市

現・つくば研究学園都市。茨城県の筑波山麓に筑波大ほか国の教育・研究機関を集めた人工都市。東京の人口過密の緩和と産学協同の実効をめざした。八月三一日、用地買収業務を県・地元町村に委託する調印式が行われた。二七〇〇ヘクタールの研究学園地区には四十余の研究機関が建設され、昭和六〇年以降の「科学万博」跡地開発を契機に民間企業の進出も相次いだ。

環七排ガス調査

東京の世田谷医師会が、環状七号線大原交差点付近の住民三三四人を対象に、九月末に行った排気ガス被害調査。一〇月七日、二一パーセントが結膜炎、八パーセント以上が気管支炎にかかっているなどの結果を発表した。現場は一時間に八〇〇〇台もの交通量があり、厚生省が前年九月に行った調査でも、最高一一〇ppmの一酸化炭素が検出された。

二つの中国

中華人民共和国と台湾をともに独立した国家として認めること。この年一一月一〇日、カナダ、イタリアなどが国連総会にこの案をもとに両国加盟決議案を提出。日米など中国排除派が反対にまわった。しかし、中華人民共和国政府は一貫して「中国はひとつ」と主張。昭和四六年、台湾が国連から追放され、ついに国際舞台でのひとつの中国が実現した。

東京間借人協会

民間アパートの居住者や間借人の地位向上をはかる目的で、東京中央郵便局局員・松本秀夫が提唱、一一月一六日に結成。会長には作家の中村武志が就任し、礼金制度禁止、公営住宅の大量建設などを訴えた。この頃、東京の全世帯のほぼ三分の一が間借生活を送っており、家賃の値上げなどによる家主との紛争が頻発、国も借地借家法の一部を改正、借り手側の保護に乗り出していた。

▶東京間借人協会会長の中村武志。

週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1966

CONTENTS

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター 山口至剛
表紙デザイン 山口至剛デザイン室＋渡邉裕一
本文レイアウト デザインオフィス八起き
編集協力 有エービーシープレス 株カマル社 株コミュニケーションハウス・ケースリー シド・プロ 有マックス 有マライカ 小原伸夫 鍵和田良輔 小松邦宏 佐野長成 張替政展 藤森雅弘 結城順・吉田忠正
●写真協力
池田満寿夫 熊切圭介 坂昌道 沢田サタ 但馬一憲 中谷吉隆 野上透 英伸三 浜田益水 平野美津子 ラリー・バローズ 朝日新聞社 共同通信社 CORBIS BETTMANN 時事通信社 新華社 中国通信 日刊現代 PANA通信社 美術出版社 PPS 文藝春秋 北海道新聞社 毎日新聞社 読売新聞社 ROGER-VIOLLET WWP 円谷プロ 勅使河原プロ 徳間ジャパンコミュニケーションズ 日活 M&Y事務所 東京都島嶼町村会

第1巻第5号 通巻5号
編集人 近藤龍士
郵便番号112-01 東京都文京区音羽2-12-21
定価560円
雑誌 23701-6/3 T1123701060568
Ⓛ-2001/1/1

印刷 凸版印刷株式会社 製本 本村製本株式会社